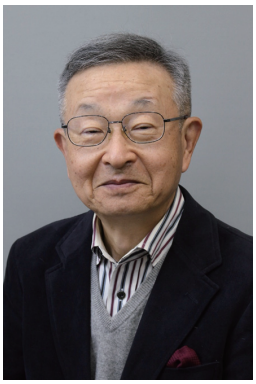
東京若商会 同窓会会報

第24号

発行者
福島県立若松商業高等学校同窓会
東京支部東京若商会
会長　本名 喜久造
TEL：03（5754）3040
FAX：03（3748）6102

《参加者拡大を目指して!!》

会長　本名　喜久造
（昭和45年卒・第22回）



本年（丙午・ひのえうま）を迎え皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

午年は「馬」を象徴し、活力・行動力・前進・情熱を表す年と言われています。午年が皆さまにとりまして、さらに《飛躍・発展》に繋がる充実した1年になりますようお祈り申し上げます。

また、平素は同窓会活動にご参加・ご協力賜り心から厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の社会を振り返るとロシア・ウクライナ戦況の終結が見えない状況。また国内外各地での地震をはじめ自然災害も発生が続きました。そして身近には「コメ」を始め、食品・エネルギーを始めとした生活に直結する物価高騰が続き、賃金が物価上昇に追いつかない状況が続いています。また最近の新聞記事からとても気になるニュースの1つに『紙の出版物販売金額がピーク時の4割』があります。インターネットの普及、書店の減少など要因は多岐にわたりますが、国を挙げてAIの活用・普及と併せて対策を講じる課題と思われます。そしてスポーツでは私の好きな大相撲で新進気鋭の「安青錦」（22歳）の活躍は極めて印象深いものがありました。

さて、次に令和7年の東京若商会の活動（イベント）を振り返れば、期初に計画した会務活動の中でまず、6月に第96回総会を約120名近い皆さまにご参加頂き、楽しく賑やかに開催できたことです。しかし「秋の旅行会」が実施出来なかった事は、残念であります。旅行コストの上昇、参加常連会員の高齢化（活動会員の世代交代立ち遅れ）、そして会員の多様性・趣味・好みの変化など要因は多数に及ぶと思われ今後の検討課題と認識しています。

4月にはゴルフ同好会、9月には寄席を楽しむ会の開催、更に本年3月には伝統ある同好会「名所旧跡巡り」を予定しています。各同好会の幹事の皆さまには事前の調査・段取り・参加者募集・当日の引率・会計・懇親会に至るまでのご苦労に改めて感謝いたします。次に会報第23号は広報委員会のもと今回も紙面の充実した、オールカラー、32頁版で発行できました。関係各位に改めて感謝いたします。役員会や三役会の会務活動も、Zoomによるオンライン会議方式も織り交ぜながら、予定通り実施できました。ありがとうございました。

令和8年の重点取組は引続き『組織の活性化・参加者拡大』が最優先であります。昭和50年代卒業の同窓生の参加を粘り強く呼びかけ、ネットワークを拡充して行くことです。東京若商会の現有のホームページや大勢の皆さまに投稿・参画いただいている『会報』を最大限活用し、組織に新風を吹き込んで参る所存です。

【令和8年活動のポイント】

①総会開催　上野精養軒　6月13日（土）
②会報第24号　発行日6月13日（土）
③既存同好会活動（ゴルフ・演芸鑑賞・旅行・名所旧跡巡り）の参加者拡大へ開催時期の見直し検討
④同窓会創設100周年に向けての準備委員会設立（7月予定）
⑤学年幹事（役員）増強対応
⑥本部同窓会との連携、同郷他校同窓会との交流促進

同窓生の絆を強め、『楽しく元気な』東京若商会づくりに注力いたします。東京若商会設立100周年（本年97年）に向けて皆さま方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

文末になりましたが、令和7年7月、元東京若商会副会長の佐瀬善彦さま（92歳）、令和8年1月元本部同窓会会長の齋藤共子さま（84歳）がご逝去されました。

ほか、ご逝去された恩師ならびに会員の皆さまのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

結びに、皆さまのご健康とご多幸ならびに母校の益々の発展をご祈念して会長挨拶といたします。



◆本号の目次は最終頁をご覧ください◆

東京若商会会報第24号発行に寄せて

同窓会会長　佐瀬　正行
（昭和50年卒・第27回）



この原稿を書き始めるこの時期、ちょうど卒業式の季節となります。今年は昨年の大寒波、災害級の豪雪とはうって変わって雪のない暖かい、卒業式を迎えることができました。３月１日に令和７年度卒業生１５４名が学び舎を巣立っていきました。

その２日前には、同窓会入会式を行い、新たな同窓生を迎えることができました。この先この同窓生が、同窓会の行事に参加していくのかと、期待したいと思います。

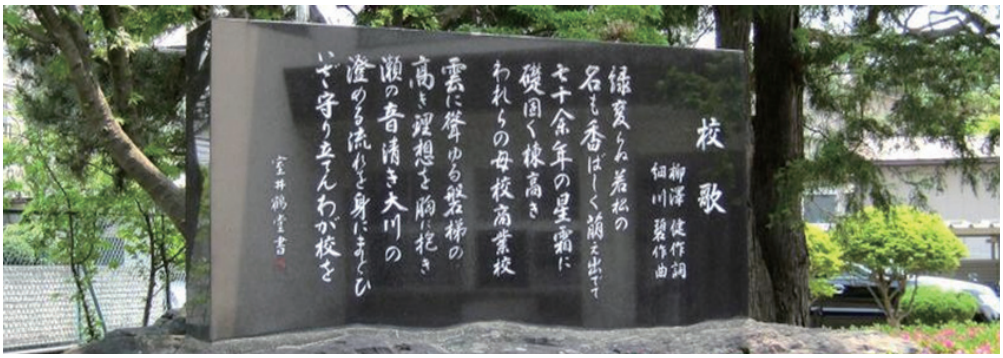
今年度の卒業生は、厳しい制限の中の中学生活を送ってきた世代で、高校生活の中でようやく日常を取り戻し、学校行事を復活させ校舎に活気をみなぎらせました。その子供たちの３分の２が大学や専門学校への進学で、３分の１が就職だそうです。実学の精神を重んじ商業の専門性を磨いた優秀な卒業生として、進学先や就職先での活躍が大いに期待されます。世界の情勢も混とんとしている中、社会に出てゆく卒業生も不安な気持ちもあると思います。われわれ同窓会としても、後輩に頼られる存在でありたいと思います。

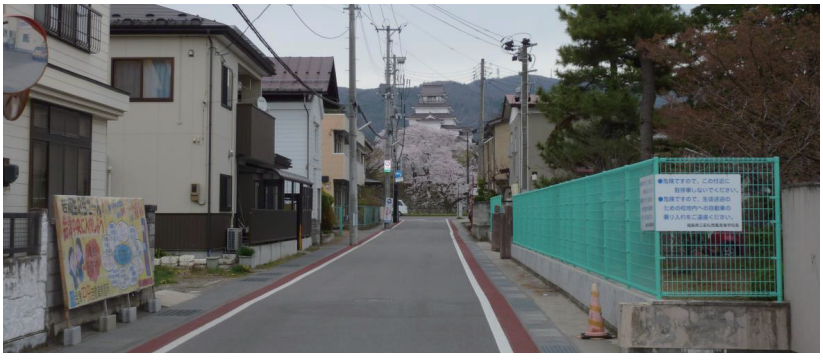
さて、東京支部の皆様には、ご自分の故郷の情報をラジオを聴いて想いを寄せていただければと思います。30年前になりますが、コミュニティラジオ「エフエム会津」を立ち上げ、今年４月１日から会津若松市役所内から電波を発信しています。無料アプリ「サイマルラジオ」でインターネット同時放送、ＰＣ、スマホ等で聴くことができます。各学校の校歌も配信しており、先日はある先輩より、校歌もよいけど、あの時の印象深い応援歌が聴きたいとのリクエストもあり、これから企画するところです。ぜひ、東京支部の皆様も聴いてみてください。

結びになりますが、若商同窓会東京支部の益々の発展と、会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。











東京若商会会報第24号
発行に寄せて



前校長　中野　正人
（在職期間　令和6年4月～
令和8年3月、昭和61年卒）

東京若商会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動に対し、温かなご支援を賜っておりますことに心より御礼申し上げます。

昨年6月14日に上野精養軒において開催されました、東京若商会第96回総会には、校長として2度目の出席をさせていただきました。近年、どの学校も同窓会の参加者が減少傾向にある中で、100名を超える皆様が楽しみに集われている姿を拝見し、母校若商への変わらぬ思いを強く感じました。第100回総会に向けて盛り上がりを見せる会の雰囲気に触れ、私自身も大いに楽しませていただきました。誠にありがとうございました。

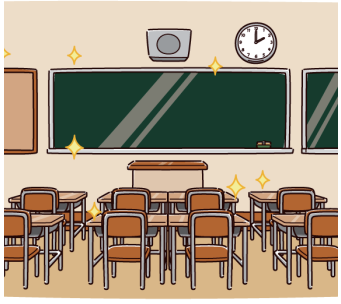
さて、本校の令和7年度の学校行事についてご報告いたします。4月には、新入生の親睦を深めることを目的に「強歩大会」を実施し、阿賀川土手沿いを歩き切った生徒には、保護者の皆様のご協力による豚汁「若商鍋」が振る舞われました。生徒たちは達成感を共有しながら温かい鍋を味わっていました。7月には校内球技大会を開催し、競技と応援を通してクラスの団結力を高めました。10月には3年に1度の体育祭をクラス対抗で行い、綱引きや大縄跳び、リレーなどの各種目に楽しみながらも全力で取り組み、思い出深い行事となりました。

次に、部活動ですが、簿記研究部が20年連続で全国大会に出場し、団体10位、個人9位と健闘しました。運動部では、剣道部が県新人大会で女子団体3位に入賞し、10年ぶりとなる東北大会出場を果たしました。柔道部はインターハイ県大会で男子3位、女子2位と好成績を収め、東北大会に出場しました。スキー部は県大会で男女とも大回転で上位を独占し、全国インターハイに出場しました。バドミントン部は地区大会で男女とも団体・個人の全種目優勝を果たし、県大会でも入賞、東北大会出場を決めました。女子バレーボール部は3年連続でＦＴＶ杯に出場し、現在は春高バレーを目指して練習に励んでいます。

資格取得では、国家資格のＩＴパスポート試験や日商簿記検定2級で例年を上回る合格者を出したほか、税理士試験の必修科目「簿記論」に合格した生徒もおりました。高校生による税理士試験科目合格は福島県で初めてであり、商業高校生らしい大変誇らしい成果です。

今年3月に卒業した生徒の進路は、大学・短大への進学が57名、専門学校が37名、企業就職が48名（うち県外7名）、公務員合格者が8名でした。それぞれが進路目標に向けて努力を重ね、確かな成果を残しました。今後も、生徒1人ひとりの希望が実現できるよう、教職員一同、より良い教育の提供に努めてまいります。

結びに、東京若商会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝ご活躍をお祈り申し上げますとともに、母校若商の一層の飛躍に向け、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げ、会報の発行に向けた私の挨拶といたします。







令和7年度 総会・懇親会報告

「第96回東京若商会総会・懇親会を盛大に開催!!」

会長　本名　喜久造（昭和45年卒・第22回）

令和7年6月14日（土）、東京上野公園内の上野精養軒において、第96回若商会総会・懇親会を開催しました。

当日は、母校若商の中野前校長、本部同窓会の佐瀬正行会長ほか多数のご来賓の皆さま、会員は昭和27年卒（第4回）の最長老から、本年（令和7年）卒業したばかりの最若手まで含め、総勢120名近いご参加がありました。

総会では、本名会長の挨拶に始まり、粛々と議事が進行し、用意した5議案が満場一致で了承されました。

懇親会は、伊藤秀一会員からの樽酒（4斗樽）2樽の鏡開きでオープン。恒例の室井顧問手作りの鰊の山椒漬、胡瓜の一本漬。そして寄贈の会津の銘酒が卓上を賑わせ、みんなで舌鼓を打ち会場は一気に和やかな雰囲気に包まれました。

アトラクションでは、地元会津東山温泉のご当地ソング『風花峠』を歌った松竹・劇団新派舞台女優・歌手の『山吹恭子』さんの熱唱と踊り、続いて会津磐梯山の盆踊りで大いに盛り上がり、豪華景品の当たる抽選会では、みんなの目が17本の豪華景品に注がれました。（株）若松通商様からの1等賞は、日頃くじ運に恵まれないと言っていた某先輩が引き当てられました。大変お喜びで、急きょ2次会に参加され、終始笑顔が絶えませんでした。

懇親会の最後に、来年の再会を約束し、三浦副会長の締めでお開きとなりました。

皆さま、来年も多数のご参加をよろしくお願いいたします。


















若魂
若魂



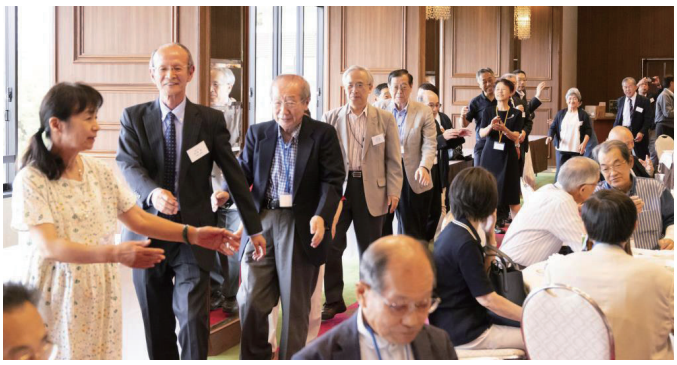







末廣








令和七年若松商業高等学校同窓会東京支部
東京若商会総会

総会に初めて参加して

佐藤　安廣
（昭和50年卒・第27回）

令和7年度総会・懇親会に初めて参加させていただきました、昭和50年卒業の佐藤安廣です。スキー部の先輩である伊藤秀一さんより、以前から「1度出席してみたら…」というお話をいただいていたのですが、コロナ禍もあり今回になってしまいました。

私自身、大阪に在住しており、これまであまり東京に行く機会もなかったのですが、今回東京若商会に出席させていただきました。大阪で、OB・OGの方にお会いすることはなく、久しぶりにお世話になった方々や、懐かしい友人に会うことができ、良き1日でした。また、校歌や応援歌等を歌い、最後には盆踊りまで踊り、約50年ぶりに当時を思い出しました。このような機会をいただき、ありがとうございました。本年の総会・懇親会にも参加させていただく予定でおります。上野で皆々さまとお会いできますことを楽しみにしております。

末筆ではありますが、東京若商会のますますの発展と盛会、そして皆様のご多幸を祈念して「初参加者からの一言」とさせていただきます。

幹事長レポートNo.7

幹事長　五十嵐　健
（昭和50年卒・第27回）

1 はじめに

東京若商会会員及び役員の皆様には、日頃から当会の運営にご理解・ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

令和7年度第96回総会には来賓14名、会員100名（内初参加者9名）の114名の方にご参加いただき、盛大に開催することができました。

佐瀬本部会長はじめ中野前校長先生には会津からご参加していただき、ご祝辞を賜りました。さらに多くの来賓や今回ご参加できなかった会員の皆様には過分なるご芳志をいただきました。改めて感謝を申し上げます。

第96回総会では、新たな企画として、参加者全員におみやげとして今治の「ハンカチタオル」を配布し、抽選会も壇上で17本（太郎庵目黒様・室井顧問から寄贈）の抽選会を実施しました。

総会後の懇親会では、来賓・役員・初参加者に登壇していただき、役員の伊藤さん（昭和49年卒）ご寄贈の樽酒の鏡開きを行い、盛大に開会しました。会は、同級生が同じテーブルに着座し、美味しいお酒と料理をいただきながら和やかに親睦を深めていただき、最後には『会津磐梯山踊り』で盛り上がりました。集合写真を撮り、再会を約束して散会となりました。

今後も、参加して良かったと思っていただけるよう、創意工夫をしていきたいと考えております。会員の皆様には、引き続き総会への参加をはじめ、当会の運営にご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 東京若商会同窓会の原点について（総会参加が原点）

会則第2条第1項に「本会は、会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に寄与することを目的とする。」第2項に「本会は、前項の目的を達成するため、次の活動を行う。（1）総会および役員会の開催（2）会報の発行（3）その他　本会の目的を達成するために必要な活動となっています。

私は、会員の皆様の接点は、総会にあると思います。7年度は第96回でしたが、ここまで先輩の役員の方々が継続して開催してきたことは偉大な力であり大きな宝だと思います。また、ご参加していただいた会員の皆様のご理解・ご協力の賜物であり、今後も100回、150回に繋げていくことが、役員をはじめ、会員の皆様の使命ではないかと思います。

皆様ご承知のとおり、総会の参加者は、年々高齢化で退会する方が増え、また、新規に会員になる方は卒業生数の減少に伴い、減少傾向にあります。年齢を問わず、皆様の総会へのご参加をお待ちしております。

総会参加が原点で3つのメリットとその他の楽しみもあります。お気軽にご参加を！

①1人で参加されても、同級生や同年代が同じテーブルで歓迎！
②美味しい食事やお酒を堪能！
③歌手等ゲストと一緒にイベント（盆踊り等）に参加！
その他
④各種同好会（ゴルフ、寄席、旅行、旧所名所めぐり）に参加！
⑤より親睦を深めるため、同級会等を実施！

総会は同級生や同じ年代の方との出会いの場であり、ここから同好会や同級会に繋がっていくものと思っています。是非とも、総会にご参加をお願いいたします。

3 今後の会員勧奨と第100回開催に向けて

第96回総会の参加者（来賓を除く）の平均年齢は、72歳（前年75歳）でした。初参加者が若かったことなどから、平均年齢が下がっていますが、会員の参加者は100名（前年110名）と減少傾向にあります。高齢化により体調をくずし欠席される方が増えており、参加者が100名を切るのは明らかな状況です。

50歳代以降の方に参加していただかなければ、同窓会の存続が厳しい状況にあります。令和8年度も、昭和50年以降の卒業生に総会案内と合わせて、会報（前年作成のもの）を同封し、当会の活動のPRを行うこととしています。

令和8年度は第97回総会で、3年後の令和11年度は、第100回（100周年）記念となります。令和8年度総会終了後の7月頃に設立準備委員会を設置し、
①記念誌の発行
②記念事業・祝賀会
③母校への寄贈を中心に検討していく予定です。

100周年記念総会に向けて、1人でも多くの会員にご参加していただけることを心から願っております。人生のひとコマとして東京若商会同窓会（総会）を一緒に楽しみましょう！

【連絡先】
幹事長　五十嵐　健
〒339-0068　さいたま市岩槻区並木2-5-2-1007
メール：igarashi1020803@gmail.com
TEL　090-9795-7539

追悼文

前常任顧問
佐瀬善彦さんを偲んで

会長　本名　喜久造
（昭和45年卒・第22回）

佐瀬善彦さんは、令和7（2025）年7月29日旅出たれました。享年92歳でした。多忙なお仕事（政治部記者）乍ら、会の先頭に立ち『東京若商会』を拡大・発展に尽力されました。ここに改めて衷心より感謝と御礼を申し上げます。

私が当会の活動に参加し始めた2000年頃には既に退職（筆を折る）され、副会長も若手に譲られていたと思います。健康上のことから禁酒され、宴席でご指導いただく機会はなかったように記憶していますが、事あるごとに佐瀬さんに大所高所からご指導・アドバイスをきめ細かくいただいた事は記憶に新しい。とてもハートのある方でした。

佐瀬さんの残された功績は数多いが、まずは、2002年6月に『会報の創刊』があげられる。

本年で第24号まで着実に発刊されている。創刊号の編集後記に次のように述べられている。

～「全員参加の手づくりの紙」をモットーに相互の親睦と伝統を守り、更なる発展を目指し、次の世代に継承して行く糧ともなれば幸いです～

また、同氏の思いの強い同好会活動として「名所旧跡巡り同好会」がある。ある時、佐瀬さんが私に「この同好会は歩く事と新旧名所に出かけ学習（頭を使う）」両面にメリットがある、と。是非、この同好会も大切な年中行事の1つとして維持・継続させていきたい。

次に佐瀬さんは、歴史ものがとても好きで各種講演会などに出かけ、また、歴史書物をよく読んでおられた。ある時、歴史ものをあまり好まない私に、会津の歴史に関する本を3冊くださった。（写真ご参照）

・会津ものしり検定（Q&A）
・会津ものしり検定（もっと会津を知ろう）
・会津地域の歴史

会報等を使って皆さんにふるさと会津を勉強して欲しいといった思いから、佐瀬さんからいただいた有難い書籍と理解している。

もう佐瀬さんから行事の節々に激励の電話も頂けなくなり残念でなりません。良き伝統はさらに継承・発展させ、また東京若商会（同窓会東京支部）創設100年を3年後に控え活気あるものにして参ります。

佐瀬善彦さん、どうぞ安らかにお眠りください。極楽浄土（天国）でも大勢の皆さんに囲まれておられる事と思います。　合掌



齋藤共子さんを偲んで

同窓会名誉顧問・元校長
二瓶　哲
（昭和35年卒）

前同窓会本部会長の齋藤共子さんが今年の1月3日に突然他界されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

思い返せば、昨年の12月21日にお店でお会いした時は、いつもと変わらない明るく元気な言葉を交わしていたので、突然身罷るとは今もって信じがたいことです。

齋藤さんとの出会いは、若商の高校時代に始まります。同じ部活動を一緒に行い、楽しくも有意義な時を過ごした沢山の思い出があります。卒業後はしばらく空いた時がありましたが、昭和57年に私が若商に勤務し、同窓会事務局の仕事をするようになってからは、再び一緒に行動する機会が多くなりました。

塚原嘉平同窓会会長の時代に、女子部1期生の齋藤共子さんを役員としてお迎えしたいとの提案がありました。総会において初めて役員になられ、ここから佐藤甚吾会長、吉川卓司会長と2代20年にわたり副会長を務められたのです。特に吉川会長最後の年に若商創立100周年の事業があり、これが大成功しました。その1番の功労者は齋藤さんであると話された吉川さんの力強い推挙があり、女性初の同窓会会長が誕生したのです。今から14年前の平成24年のことでした。

以来、副会長時代の豊富な経験を活かし、同窓会本部の活動はもちろん、各支部の活性化に力を注がれ、今日の若商同窓会の盤石な基盤を構築されました。

この間に、創立110周年事業を実施されるなど、数々のご功績は枚挙に暇がありません。

顧みますに、齋藤さんは本職のお店の専務という立場にあり、着物の着付けの講習にも度々上京されていました。加えて、商工会議所や商店街・各種団体との関わりなどで、昼夜の区別なく精力的に活動されてこられました。こうした長年の苦労の蓄積が命を縮めてしまったのか。

私たちは何事にも気軽に協力する齋藤さんに頼り過ぎたことを今更ながら悔やんでおります。

共に学んだ御詠歌の追悼和讃の一節です。

「この世さながらうたかたの　消えて流るるはかなさよ　思い出悲し今日の日に　呼べど帰らぬ鹿島立ち」「あの世のことです」この後に「真心込めて　送りなん」と続くのですが、そこまでの心情になれずにいます。

せめて残された私たち同窓生は齋藤さんのこれまでのご功績に恥じないよう精進し、活動していくことであると、肝に銘じるものであります。

齋藤共子さんの遥かなる旅立ちをお祈り申し上げます。　合掌

恩師からの便り

進路指導を振り返って

星　修一

（在職期間　平成7年4月～平成17年3月）

私は国語を担当し、校務分掌は教務主任、学年主任、進路指導主任を担当しました。

特に進路指導では、生徒の第1希望の進路実現のために微力ながら手助けできました。生徒が履歴書作成時に志望の理由などが中々書けなくて苦労していました。そのような時、添削などの指導で大変忙しかったことを思い出します。

若商に赴任した時は50才を過ぎており、この学校で退職を迎えるのだと感慨深い思いを持ちました。時の校長先生は二瓶先生、平野先生、清信先生でした。クラス担任を久しぶりに持ち、年齢の差が大きいので父親のような態度で接し、相談に乗ったことを思い出します。卒業式で生徒を送り出すと今度は私が退職となり感慨深い行事が重なりました。

退職後、会津工業に再任用で2年ほど勤め、その後は会津短大に進路指導の職員として採用され、若商での経験を活かしながら短大生の就職指導をしました。

80才を少し過ぎた年になり同僚の先生、指導した生徒が懐かしく思い出されます。若商の益々の発展を祈念致します。

私の若商時代

野中　嘉浩

（在職期間平成18年4月～平成27年3月）

若松商業での勤務は、採用23年目で最初は若商デパート主任でした。デパートの仕事内容は実習助手の北田先生にご教授いただき、十日市出店や株主総会など初めてのことが殆どで、楽しく勤務させていただきました。次の年は4度目の担任として、また学年主任として5名（2組星貴夫　3組岡本由紀子　4組阿部哲也　5組山崎次郎　6組舟田宗夫）の先生方と厳しくも楽しい3年間を過ごしました。この学年が2年時の最後のクラス替えをした学年です。さらには、修学旅行も全6クラス総勢240名で全員参加できた思い出があり、悔やまれるのは京都に着いてタ食前のテレビの全国放送で、伊佐須美神社の本殿などを焼失したとのニュースが流れたことでした。生徒たちの不安そうな様子が思い返されます。そして、3年最後の文化祭では、体育館のステージ前の床を陥没させるほど生徒がエキサイトしました。おかげで2週間ほど使用禁止でした。

卒業生を出した翌年は総務部主任として、強歩大会での「豚汁」をスタートさせました。味噌を作る農家より、大きな鍋を借りて、1度に全校生徒分の豚汁を作ると、多くの素材からおいしい出汁がでて大好評でした。

9年間の若商生活を終えて、喜多方桐桜高校で5年間定年までを勤務しました。再雇用として若松商業での勤務となり、今度は若商デパート主任として頑張るよう校長先生から指示を受けました。良品計画（無印良品）と共同出店をしたり、若商デパートの看板にLEDライトをつけました。また、東日本大震災で日本全国の多くの方々より助けていただいた恩返しとして、「能登半島地震」で被災された方々に十日市出店での売り上げ利益の全額を「義援金」として令和5年に続き、令和6年も贈りました。

ところで若松商業の近況をお知らせします。校舎の1棟と2棟の間の中庭に植えられていた欅とヒマラヤ杉が3階の校舎を追い越したので、先日伐採しました。





最後に福島県立若松商業高校を卒業された先輩方の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

簡単ではありますが、私、野中嘉浩の「若商時代」とさせていただきます。お読みいただきありがとうございました。

「われ等の母校　商業校」

羽染　恒

（在職期間　平成25年4月～29年3月・令和4年4月～7年3月、平成元年卒）

入学して間もなく、「今日の昼休みになんかあるみたいだぞ」「早く昼飯食った方がいいみたいだぞ」教室内でそんな声がつぶやかれていました。ほどなく昼休み時間。応援団の先輩方が教室に来られ、校歌・応援歌のご指導がありました。

「高校って、すごいところだな」と感じた瞬間でした。（時代は流れ、校歌・応援歌は音楽の授業で取り組まれております）

高校時代は大好きな野球に明け暮れる毎日でした。入学する前の年になりますが、若商と磐城高校との決勝戦と自分たちが戦った最後の試合は、今でもしっかりと脳裏に焼き付いており、私が教員を目指したきっかけでもあります。

平成6年に商業科の教員として採用になり、簿記や情報処理などの資格取得の指導に精一杯力を注ぎながら、生徒と一緒に商品開発にも一生懸命に取り組んできました。また、部活動では採用以来ずっと野球部の顧問

として、全力を尽くして指導に打ち込みました。

若松商業高校には、教諭として平成25年4月からの4年間と令和4年4月からは教頭として3年間、勤務させていただきました。この間、リオン・ドールさんをはじめ、デザイナーの金子裕一様、ホームベーカリーコビヤマの小檜山和馬様、太郎庵の目黒徳幸様のご協力により、「會津の三泣き弁当」や「いただきばんだい（カヌレ）」など、毎年1つ以上の商品を開発、販売することができました。

生徒たちにとって、大変貴重で素晴らしい経験と商業の学びを深めることができました。ご協力いただきました金子様、小檜山様、目黒様は同窓生であり、同窓生の力と絆の強さに改めて感謝しております。

また野球部では、夏の大会で聖光学院に敗れましたが、ベスト8という結果を残すことができました。これも同窓会からの多大なるご支援とご協力の賜物であり、深く感謝申し上げますとともに、組織力の偉大さと結束力の強さを感じました。

私はこれまで多くの学校で商業教育に携わってきましたが、商業を学ぶ生徒の特徴は、真面目で黙々と取り組むという印象があります。若商生も同様に劣らず、大変真面目で、最後まであきらめず、黙々と取り組む姿が目に浮かびます。この資質と能力は、若商の長い歴史と脈々と受け継がれてきた伝統によって育まれ、部活動における数々の輝かしい結果や素晴らしい進路実績に結びついているものと思っております。

若商で過ごした時間は、私にとって何よりの財産です。これからも、ひたむきに努力する生徒、大きな声であいさつをする生徒、そして誇りを胸に大きな声で校歌を歌う生徒を育てていきたいと思っております。

若商時代の思い出

母校在学で得た無限の財産

鈴木　公毅（昭和29年卒・第6回）

昭和は古い時代になったが、私は、26～29年に在学した。

入学当時の社会情勢は、戦後の混乱期を脱却し復興へと段階的に進み、経済面においても成長路線を歩み始めていた。

入学して初めて校舎正面玄関の外観を見た時、美しさと風格に胸が打たれた。なぜだろう、3年間の学習や行動で1、3学年の記憶は多いが2学年は少ない。気持ちの弛みだろうか？

やはり、楽しかったこと、苦労したこと、失敗したことは忘れない。

ここで、いくつか授業で得た知識と教訓などについて記載させていただく。やや自慢げに思われがちですが、お許しください。

▽1学年

「商業簿記」何の勉強だろう？

先生は当校の先輩（昭和20年卒）で、当時は、単純に知識豊かで何と優れた先生だろうと思う程度であった。今に思う、自律心が高く将来有望な存在だった。

勘定科目、取引仕訳そして決算書作成に至るまで、多くの例題を挙げ教えていただいた。理解するのに時間を要したところもあったが、商業簿記の本質基本を修得することが出来た。

▽2学年

選択科目で数学（微分・積分）を履修した。

期末試験で60点をクリア出来ず、追試験組に移った。ところが、合格点は80点と更に厳しくなり一段の努力を強いられた。「弱り目に祟り目」気力を充実させるための教訓と思った。

▽3学年

（1）工業簿記の概念を習った。

先生は商業簿記と同じ。

形態別分類での原価要素は三費目だが、製造原価要素での分類及び計算方法になるとあまりにも特有の勘定科目や用語が多く苦労続きだった。理解が進んでくると奥が深く魅力ある科目となった。

（2）会津短大生に商法の会社総則を教わった。

教育実習の一環で、早々に意思疎通し楽しい授業に至った。コミュニケーション能力を備えた学生さんだった。

（3）生活面

級友がパンを粗末に食べゴミ箱に捨てたことが原因で、経済担当の先生に「生産者の苦労・努力を無視している」と厳しく指導を受けた。

当時、食料事情も改善されてはきたが安定にはまだ遠かった。

▽1～3学年

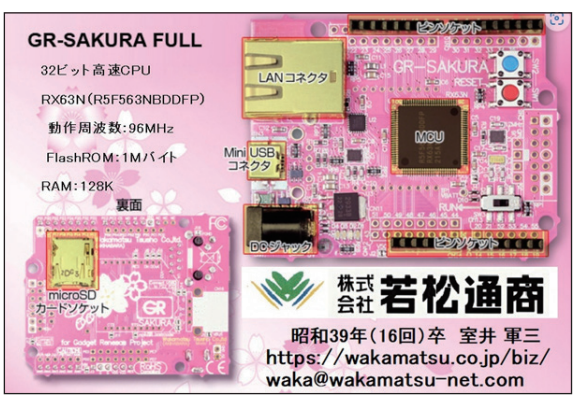
3年間文武二道の教育で柔道が必修だった。

柔道精神を習得し体力増強に繋がった。真冬、割り当てられたストーブの石炭が無くなり柔道着に着替える時の寒さは忘れられない。

母校時代はあっという間だったが、無限の財産をいただいた。

感謝申しあげます。





懐かしい部活動・卓球部

坂井　徹夫
（昭和40年卒・第17回）



当時部活動は「自立」の精神が基本。卓球部顧問としての師は部活動にあまり介入せず生徒が主役。顧問は猪俣左恭先生、鈴木守信先生であったが指導を受ける事はなくたまに顔を出され年度ごとに交代していた。当時、若商もバンカラな気風（挨拶・礼儀作法）が残っており特に上級生と下級生のケジメの風潮は強かった。

私も中学時代の卓球経験を生かし、4月卓球部を志願し、代表選手をめざした。当時数少ない丸いラケットの「シェークハンド」カットマンに手を上げ挑戦した。

「部活動の内容」

当時柔道場を間借り片隅に卓球台3台が活動の場所であった。4月新入生40名程入部。当初は収容しきれず基礎体力作りで郊外でのランニング（湯川の土手を約1時間）、校舎内廊下でウサギ跳び、ビール空瓶で手首の強化、腹筋運動、ラケット素振り、道場で玉拾いなど卓球台を使用する事は暫くなかった。当時いつも大声で愛嬌のある先輩Tさんが竹刀を振り回し、気合いで体力作り指導。当時トレーニング器具など何もない頃の楽しい思い出のひとコマでした。

5月会津地区試合。勝てば地区代表として、6月福島県大会に出場。そして東北大会、国体への流れとなる。

7月中旬、学校は夏休みに入り部活動は毎日続き、そして1週間校内で合宿（自炊）が始まる。毎年恒例の合宿最終日は7月31日と決まっていた。この日は合宿の打上げ最終日として、真夏の炎天下、飯盛山までランニング。そのまま飯盛山の石段を駆け足で10往復する。さすがに厳しい！　この日で新入部員は10名弱になっていた。午後帰宅時「西若松駅」の階段を重いリュックを背に上る時、やり遂げた達成感か足取りが軽い。毎年7月31日になると何故か思い出す。

「共通目標へ多様な学びの挑戦」

9月以降は基礎練習に耐えたメンバーが残された期間。卓球という共通の目標に向かい、互いに励まし協力し能力を高めて行く事になる。最終的に仲間との友情、連帯感、スポーツマンシップ、思いやりと気配りなど集団生活のルールが身につき、自分の存在意義や成長が確認できる場、期間でもあった。

「卓球は職業人としての潤滑油」

社会人となり、卓球は人生の潤滑油となった。運良く日本のトップバンクに入行。当時の社会は各企業とも社員の福利厚生に力を入れており、各支店の休憩室、保養所、研修所、運動施設には必ず卓球台が設置してある。

当時社員旅行も温泉旅館では卓球が花形であった。その他いろいろな企業団体との交流大会も活発で、千駄ヶ谷の東京体育館に何回か出場することができた。

また今年で喜寿を迎え、地元シニアの卓球指導員としてお役に立てているようである。卓球は年齢に関係なく、老若男女問わず幅広い世代と交流でき、怪我も少なく健康に良い。私の社会人としての形成はすべて若商時代がスタート。銀行に入り教科書とは違った世の中の厳しい現実、実務を叩き込んでくれたのは銀行、会社という組織であった。

「第11代青木勇夫校長　卒業生への言葉」

職業を通して　社会に奉仕する。



「現在の筆者」令和7年1月
シニア卓球教室



昭和39年12月「柔道場にて」
手前鈴木守信先生と筆者

人々に感動を与え、
新しい生活の喜びを創出します

AIWA
愛和電気 株式会社
代表取締役会長 伊藤 秀一

〒252-0815 神奈川県藤沢市石川 2−26−21
TEL：0466-86-6181　FAX：0466-86-6182・6183
http：//www.aiwa-elec.co.jp/



代表 佐藤順昭

設計・施工　店舗・住宅家具一式
ユンケル工芸株式会社

本社　〒121-0815 東京都足立区島根 2-32-21-502
TEL/FAX：03-3850-1354
工場　〒382-0123 栃木県栃木市川原田町 1041-2
TEL：0282-24-4831 FAX：0282-24-4830
会津営業所　〒969-5204 南会津郡下郷町弥五島字中の内 365
TEL：0241-67-2362

通学と部活

山田　積次（昭和44年卒・第22回）

昭和は遠くになりました。平成、令和と3代にわたり生きてきて、今年、後期高齢者の仲間入りをしました。記憶が定かではありませんが、60年前の高校入学時を振り返ってみました。

耶麻郡猪苗代町字名家で出生。小中学校は吾妻第一小・同中学校に通いました。中学卒業後、若松商業高校（以下「母校」）に入学しました。母校には、沼尻軽便鉄道（戦前、沼尻鉱山から硫黄を積み出すために引かれた鉄道。沼尻駅から川桁駅まで運行―路線図参照）を利用。

朝5時に起こされて朝食をとり、弁当持参で名家停留所へ。毎朝6時に乗車し、終点の川桁駅で降車。磐越西線川桁駅で6時40分頃の若松行きに乗り換える。若松までの所要時間は約1時間。当時はSLで、濛々と煙を吐いて走り、窓を開けているとトンネルでは車内に黒い煙が入って来ました。窓閉めが大変でしたが、忘れられないひとコマです。

当時の通学列車では、母校を始め会津高校、会津工業、会津女子、若松女子、一高生で一杯でした。列車の中では、朝早かったので大抵寝ていました。車内では、前の客車は各校の女子生徒。1年生はその次の車両、2年生は真ん中あたりに乗っていました。後ろの車両には怖い先輩たちが乗っていて、各校で対立していたように記憶しています。私は体も小さく比較的おとなしくしておりました。母校の先輩方に守られ、殴られるようなことはなかったので、まじめに休まず通学しました（3年間無欠席で皆勤賞）。

若松駅で会津線に乗り換え西若松駅で降り、15分ほど歩いて母校に通いました（大体、8時15分頃には着いたように記憶しています）。若松は猪苗代町の在からすれば、当時は本当に都会でした。

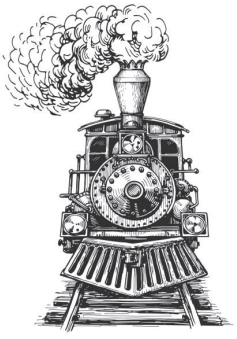
入学後、中学で、卓球をしていたので、卓球部に入部。授業終了後柔道場脇にある卓球場に集合。台が4台しかなく、先輩が使用のため、1年生は最初は球拾いと体力を鍛えると言って毎日、小田山まで走らされました。帰りは川桁発6時50分の沼尻行きが最終（時間は不確かで す）で、西若松4時30分頃、若松発5時50分頃郡山行きに乗らないと帰れなかったので、小田山から帰るとすぐ先輩の了解を得て帰宅の途につきました。

卓球のボールに触れることはなかったので、もう少し遅くまで残りたいと思い、猪苗代駅まで自転車通学を試みました。朝、駅までは山下りで快適であったが、夜遅く山登りは体力的にきつく、必死にペダルを漕いで通ったが、1か月も持たずに断念。猪苗代駅までは約10キロ。帰宅時間が遅くなり（8時ごろ）、朝は毎日5時起床はきつく、卓球部を退部。その後、運動部に所属することはなく、英語クラブに入り卒業まで所属しました。

沼尻軽便鉄道が走る猪苗代北部は冬期間（11月から3月まで）大雪と地吹雪等でたびたび運休と遅れが生じ、通学できなくなりました。そこで、10月ごろつてをたどり湯川沿いの下駄屋さんに下宿をすることなりました。実家からコメを持参し、3度の食事（弁当持参）をいただきながら学校に通いました。下宿料は記憶にありません。3月一杯で下駄屋さんを出て、4月から汽車通学に戻り10月末まで通いました。

高校2年生の秋には鉄道が廃線になるとの情報が入り、早めに下宿探しをしました。同級生のK君の家に下宿することになり、高校が近くで本当に助けられました。3年生に入ると就職試験のために1年間下宿をしました。場所は自動車学校の裏手にありました。

現在、沼尻軽便鉄道は線路（軌道跡）が道路になっていて通行できます。たまに帰省した時に通るが、非常に懐かしく思い出します。





（carthago 転載）

お客様に役立つサポートを提供します。
玉川助市税理士事務所
所　長　玉川助市（昭和45年卒）
税理士　玉川祐太（平成16年卒）
〒965-0005
福島県会津若松市一箕町大字亀賀字郷之原384番地3
TEL（0242）24-7938
FAX（0242）23-1625

若商剣友会
会長　鈴木 泰男
〒965-0865 会津若松市川原町2-12（森浜製麺所内）
事務所 TEL・FAX 0242-27-5031
携　帯 090-1490-2927 森山亮一

ふるさと新発見

福島県に東蒲原郡があった

松川　源郎
（昭和34年卒・第11回）

面白いテレビ番組が昨年の11月にあった。フジテレビ「なんだこれミステリー」の不思議な県境、新潟県と山形県の間に細長く入り込む福島県の「謎のエリア」。これは、蒲生氏郷が作らせた尾根歩きの道（幅3尺で県境三国岳から飯豊山頂奥宮と境内・御西小屋迄の「へ」の字につきでた登山道7・5㎞）でした。

飯豊山は古くから霊峰として信仰されていた。奈良時代修験の高祖といわれる役（えんの）小角（おづの）により山名がつけられ開山し、五社権現を祀った修験道の山であった。藩主蒲生氏郷の崇敬により社領五千石が寄せられ、五社権現が創建され又、登拝路（登山道）が開かれる。又、氏郷以降の藩主にも寺領は安堵され、社殿を修造される等の信仰は続いた。

私の生家は会津若松市神指町高久です。天気が良ければ東に磐梯山、北に万年雪の飯豊連峰、西は越後山脈がよく見える会津盆地のど真ん中です。私の村は飯豊山信仰が深く、小学6年男子は夏休みに村の先達に連れられ、飯豊山神社奥宮に参拝して初めて1人前の村の男として認められるのです。現在この登拝路の北側は山形県、西側は新潟県東蒲原郡阿賀町です。

この阿賀町は、平安時代越後国蒲原郡の小川庄と称し、国司「城氏平家一門」の荘園であったが、平安末期に会津の慧日寺に寄進され江戸時代まで会津領となっていた。戊辰戦争敗戦により民政局、廃藩置県により若松県、明治9年福島県、明治12年（郡区町村編成法）により「小川庄」1町69村は福島県東蒲原郡となり郡役所は津川町に置かれた。

明治19年東蒲原郡は全て新潟県移管と決まったが、山都町一ノ木村から、村の飯豊山神社麓宮から山頂奥宮は一宮であるとの申し出が承認され、山都町一ノ木村となり登山道は会津に残った。

現在の新潟県東蒲原郡阿賀町（津川町・鹿瀬町・上川村・三川村）は面積953㎢と南会津町より広い山林と阿賀野川流域の地です。この小川庄は、磐梯町の「慧日寺」（平安初期に徳一（奈良法相宗興福寺高僧）よって開かれた寺で、僧300人、僧兵数千人、寺領18万石、子院僧房三千坊と称し会津4郡を治める）に寄進された。

源平合戦の時、平家方の越後国司城資茂の下に慧日寺の僧兵乗丹坊も出兵、信州横田河原の合戦で越後会津軍は木曽義仲に大敗する。乗丹坊戦死し、城氏は越後国府まで義仲軍に追われ、越後国府は義仲軍に焼かれ、城資茂は会津まで逃げた。この敗戦で慧日寺の勢力は衰える。

頼朝の鎌倉時代となっても小川庄の会津支配は変わらず、江戸時代まで続く。会津の全ての河川が合流して、「揚川」「阿賀川」となり東蒲原郡に入り、「阿賀野川」となり、新潟港より日本海に注ぐ。この阿賀野川水運が会津藩の物流（日本海経由の大阪廻米路、西入塩の輸入路）の拠点となっていたのが津川町です。富田常雄の小説「姿三四郎」のモデルと云われる山嵐の西郷四郎は、津川町出身者として、津川城址麒麟山に顕彰碑が建っている。又、昭和20年代には鹿瀬にあった昭和電工（新潟水俣病の元凶工場）は私の村の青年が冬季出稼ぎに行ったところです。

（参考文献）
・「東蒲原郡」「飯豊山神社」ウィキペディア
・「福島県の歴史散歩」山川出版社
・「福島県の山登山ガイド」山と渓谷社
・「新編会津風土記」雄山閣
・司馬遼太郎「街道をゆく　白河・会津のみち」中央公論社
・戸川幸夫「小説嘉納治五郎」読売新聞社
・「角川日本地名大辞典」福島県・「郷土資料事典」福島県　人文社



みんなの広場

転倒

小山　文美
（昭和30年卒・第7回）

卒業後、71年もの人生を歩んできました。

昭和、平成、令和の3代に様々な出来事を体験し、現在は東京の片隅で息をしています。

昨年12月1日（月曜日）午後2時頃、近くのバス停から歩いて家に帰る途中のことです。何故だかわからず、身体がふらつき、急に足が上がらなくなり、歩行困難な状態で崩れるように転倒し、道路の真ん中に寝転んでしまいました。

動くことも、立ち上がることもできない状態でした。その時とった行動は、外出中の妻に電話をしただけでした。気が動転したせいか、大声で助けを呼ぶことも救急車への連絡もしないで横になったままでした。

暫く大の字で横になっていると、運よく通りかかった軽トラックの親切な運転手さんに助けられ、自宅まで送ってもらいま

した。お陰で、怪我もなく後遺症もなく無事で、現在も息をしています。

※小金井公園隣に住んでいるので、近くにお出かけの時には、ご連絡ください。

中学生最後の冬休み

猪俣　信儀
（昭和33年卒・第10回）

昭和29年中学最後の冬休みに、東京の品川の親戚に遊びに四兄と上京した。

1月2日に皇居で年始のご挨拶にと従業員のおじさんと皇居に行った。朝の10時頃だったと思うが、二重橋を渡り皇居に入る時、訪れた人々があまりにも多すぎて、二重橋が押しくら万頭状態になり、20メートルぐらいの橋を渡るのに20分以上かかったと思う。中に入ると靴・草履・下駄・ズック等が散乱しており、泣いている女性等で凄い状態になっていた。（17人前後の死者と翌日の新聞）皇居では天皇ご一家が窓越しに手を振られた。天皇陛下のお言葉があり、散会した。私も初めて皇居に入り、厳かな気分になった。帰りにおじさんと凄かったね、大丈夫だったかと話しながら電車に乗り帰宅した。もしかしたら？という恐怖もあった。初めての体験だった。

2、3日後、東京で仕事をしていた三兄が新宿に行こうと誘ってくれた。新宿は賑やかだった。キョロキョロしていると1軒の衣料品店に入り、ジャンパーを買ってもらった。人々の多さ、商品の多さにビックリしていたが、田舎の祭りが毎日行われている状況だった。当時着る物もまだ儘ならなかった時代で、ジャンパーは本当に嬉しかった。

3月入学試験があり、私はこのジャンパーを着て受験した。合格して、4月に入学した。簿記の時間に西村先生が「入学おめでとう」と話しながら、教室を回り、私と目が合った時「そう言えば、入学試験をジャンパーを着て受験した生徒がいたな!!」と話して私の横を通った。私もアッ！　と思ったが、その後は何もなく、私からも何も言わなかった。昭和29年の年始は、私にとっては初めての経験だったが、生死をかけた年賀と嬉しかった三兄に買って戴いたジャンパーを着ての受験等、未だに忘れらない思い出深い年だった。

「寝正月　しました」

杉原　光男
（昭和33年卒・第10回）

24日の朝方　咽結す
咾（ろう）、息、止まる（嚥下炎症（後知））
朝一でホームドクター
（ミノウラメディカルクリニック）
治療診断、画像診断は肺炎再発。
前年救急入院した厚木市立病院で救急処置、内科加藤医師が担当医。いわく、出来ることは自分でする。養生治療入院です。
大部屋（6ベッド）患者専用
先患、私で4ベッドが空　広すぎ「カーテン」しきりで陽当たらず　まして、廊下側薄暗く
治療診断は24時間制の「タブレット」管理
3食は、粥飯から軟飯になる
TV、ラジオは「イヤホーン」
21時消灯　年末年始期は静粛。
「寝て暮らす」
1月15日　日も天気もよいし退院する。家庭生活になった。
2月22日に、退院・誕生日祝等に子等の接待　受ける
盆と正月　一緒に来た　嬉しさ

「思い出は 老いの身の宝物である。」

青山　典
（昭和34年卒・第11回）

この言葉は、評論家川本三郎氏が朝日新聞に「思い出して生きること」と題して寄稿した最後の一文です。

私は今年86歳になりこの言葉が胸に響きます。ヒマをみつけては旅行の写真やDVD等を整理しながら思い出しております。海外は英、仏、独、伊、北欧、中欧、スイス、米、メキシコ、豪、等々へ行き、各々の想い出があります。が、1つだけと言われると『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台となったオーストリアのザルツブルグでした。

国内では松本清張、水上勉、司馬遼太郎、藤沢周平、池波正太郎等を愛読しながらロケ地に足を運んでおります。昨年9月には念願の北海道中標津町と別海町に行き、「ケン」さんの『遥かなる 山の呼び声』のロケ地を巡ってきました。

「ケン」さん―高倉健―主演で北海道を舞台にした映画が約5本あります。何れも名作です。北海道の厳しい自然、雪の似合う男は「ケン」さんをおいては考えられませんね。「ケン」さんは（1978年 S45）東映を退社しました。このままでは任侠映画の役者のみで終わると危機感からでした。そして77年『八甲田山』でニュー「高倉健」をつくりあげました。

77年『幸せの黄色いハンカチ』
（山田洋二）　倍賞千恵子
武田鉄矢　第1回日本アカデミー賞　タ張他

80年『遥かなる山の呼び声』
（山田洋二）　倍賞千恵子
吉岡秀隆　第4回日本アカデミー賞　中標津町　別海町

81年『駅STATION』（降旗康男）　倍賞千恵子
いしだあゆみ（脚本山田洋二）
札幌増毛町

83年『居酒屋兆治』（降旗康男）
加藤登紀子　大原麗子
函館

99年『鉄道員（ぽっぽや）』
（降旗康男）大竹しのぶ
広末涼子　南富良野

先般、山田監督がNHKで話されていた事ですが、戦前満州で映画『路傍の石』を観た時、隣の女性がハンカチを出して泣いているのが頭から離れなかったそうです。松竹に入社し、監督

になって山田映画の底流にある気がしました。

４本のロケ地巡りは終わっていたのですが、種々の都合で、『遥かなる山の呼び声』だけはここ3年程ウツウツしておりました。ようやく昨年チャンスがあり念願を果たしました。美しい道東の自然と厳しい自然の中で、小学生の息子を育てながら亡父の残した牧場を営む母子の前に現れた流れ者といつしか心を通わせる感動作です。

（1）心に残ったセリフと場面

「大変お世話になりました。この家で過ごした日々の事は決して忘れません」

最後にケンさんが網走に護送される列車の中で倍賞が黄色いハンカチを渡すシーン。

（2）主な出演者

高倉健「通称ケンさん」1931年福岡県　83歳没　205本

倍賞千恵子「通称チコちゃん」1941年東京都　182本

吉岡秀隆　1970年埼玉県

（3）中標津町　人口21000人

摩周湖　映画ロケ地

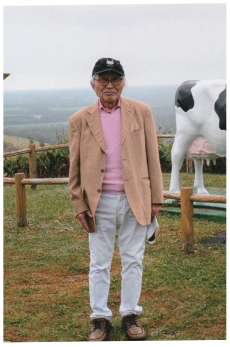
『遥かなる山の呼び声』『家族』『夜霧にむせぶ寅次郎』『釣りバカ日誌2』

＊余談ー

今回中標津に行き初めて判かった事の1つですが、幕末の一時期会津藩の領地であったという事です。幕府から露との国境警備と開拓を命じられ（安政6年1859）藩士とその家族200名が入りました。現在でも8月に野付半島にある藩士の墓で供養祭が行われております。

ー詳細は次号







＊参考資料：

朝日新聞　NHK　集英社

文芸春秋社　アサヒグラフ

ウィキペディア

中標津町観光協会

ビバ！　映画音楽14

上杉　敏男

（昭和34年卒・第11回）

前回「ヘッドライト」だったので、今回は「ライムライト」。似たような題名だが、あちらは車のライトだが、こちらは舞台上のそれ。ライムライトとは電球が普及する以前に、舞台照明に用いられた照明器具だそうです。昭和28年に公開された。当時60歳のチャップリンが脚本、製作、監督から主演のほか作曲、バレーの振り付けに至るまで全部、自分で手がけたそうな。28年といえばおいらはまだ中3。知らんかった。

38年頃、我が家にもテレビが鎮座ましまして無声映画が放映され、山高帽にちょび髭、だぶだぶのズボン、大きなドタ靴でのステッキ姿で繰り広げられるシーンに笑った。その彼が60歳の時に作った作品。

映画が始まると音楽（テリーのテーマ曲）が流れる。哀切を帯びた、が、落ち着いた、心に安心感を与える旋律です。映画にも笑い、泣こうそう。



【閑話休題】

これ以外にオイラが笑って泣けた映画は寅さんの初期のもの。

さて、道化師チャップリンが、希望を失って自殺まで図ったバレリーナを助け、見事、再起をさせるまでに至るストーリー。じゃが、最後に泣けるシーンが…。ぜひ、ユーチューブ等で観て聴いてくんつえ。

ところで、映画音楽という名称、昭和28年当時はなかった。上京して程なく、夜、たまたまラジオでスクリーンミュージック番組があって知った次第。洋画専一だった。洋画ではスタッフの一連の字幕紹介とは別に監督と同様に別格扱いで表示されるのもある。それ程に音楽には力を入れているんじゃねェ。レコード販売店にも洋もんはあっても邦もんは見当たらなかった。もち、邦画にも映画音楽はある。黒澤作品の早坂文雄「七人の侍」、佐藤勝「用心棒」は既述済みなので、ここでは、斎藤高順と芥川也寸志を紹介したい。

まず、斎藤は「早春」、「秋日和」、「秋刀魚の味」等でほのぼのとした家族愛や穏やかさを感じさせる。小津の映画は私が60歳以降に観たもの。これらの映画は内容から、親の立場でないと納得しにくいかな…と。その中で流れる音楽にうっとりとしてしまったのよ。芥川也寸志は「地獄変」、「砂の器」、「八つ墓村」「八甲田山」等がある。私は八甲田山の叙情的で雄大な旋律に聴きほれてしまった。

最近、市販が見つからないのでこれらの音楽を「聴きたい！」と思い、ユーチューブなら、と開いたところ「載ってんじゃないの！」。しばし、懐かしく聴き入った。ユー…様々だ。ユーは何でも載ってるんだ、僕はユーのファンになっちまった。今ではテレビのユーで、音楽は勿論、歴史解説、政治評論、病気に関する情報等ぜーんぶ、それ。

次回に続く

歌日記

「老々介護奮闘記、その後」

弓田　博
（昭和34年卒・第11回）

相変わらずの老々介護奮闘の日々だが、昨早春に突然、全身の関節、筋肉に激しい痛みに襲われて、立ち座りさえ侭ならぬ状態となった。整形外科、整体マッサージでも一向に収まらず、鎮痛剤の服用で痛みを凌いだが、家内の介護にも難渋した。そんな時、家内の介護ケアマネさんの訪問があって、担当のクライアントに似たような症状の方がいるがそれは「リュウマチ」です。1度内科系を受診してみては如何と教えられた。

早速、ネットでリュウマチ専門クリニックを探して受診することにした。検査の結果、「リュウマチ性多発筋痛症」との診断。体内の何らかの抗体に免疫が反応し、その炎症によって強い痛みを生じさせるらしいが、まだ発症の仕組みが解明されておらず、確かな治療法も確立されていない難しい病気とのことだった。

消炎薬のステロイド投与で半月ほどで痛みは劇的に軽くなったのはいいが、その副反応で、長年治療中の持病の糖尿病の数値が急激に悪化…。またゲリラ的頻尿に見舞われて思わぬ苦労を味わうこととなった。

老々介護は米寿近い老人には相当きつい体力勝負で、この1年の病で筋力、脚力の衰えを感じた。ケアマネの勧めもあって介護保険の申請をしてみたところ、「要支援1」の認定を受け、9月より近くのデイサービスで週1回のパワーリハビリを開始した。トレーナーの適切な指導もあり、また家での自主トレも加えて少しずつ挽回してきているようだ。このまま頑張って続けていきたい。

妻は「パーキンソン病」「骨粗鬆症」での転倒骨折、更に「フレイル」が重なって、自立ができず車椅子生活となってしまった。幸い内科的には健康で認知にも問題はない。

その後1年の奮闘歌日記を、「その後」としてお届けしてみたい。

・全身に　思わぬ痛み
　襲いきて　座布団抱き
　痛み堪えぬ

・リュウマチの　痛み消えるも
　ステロイドは　持病の糖尿
　悪化させたり

・偉そうな「パーキンソン病」という難病と　妻は戦い
　4年を経たり

・老々の　日々の介護は
　労苦なれ　介護さる身の
　辛苦思えば

・難病に　立つことならずも
　日々耐えて　嘆きも愚痴も
　せぬ妻　いじらし

・背は縮み　手足は震え
　萎え進み　治らぬ病い
　医師に告げらる

・ずっしりと　吸尿パットは
　手に重く　妻の命の
　温もり伝う

・尿焼けに　爛れし妻の　内腿に
　惨めさ分かち　軟膏を塗る

・粗相して　落ち込む妻に
　言葉なく　黙って
　襁替（きょうがえ）を
　替えやるなり

・「ゴメンネ」に　妻の無念が
　伝わりて　頷き背中を
　擦りやるのみ

・難病の　辛さ苦しさ
　耐え凌ぎ　吾の疲れを
　案じ呉れたり

・朝起きて　妻の寝息を
　確かめて　昨日と同じ
　今日を始める

・朝ごとに　2人の薬
　山ほどの　仕分けは惚けの
　歯止めとなん

・連れあいを　亡くせし友も
　多くして　妻の介護は
　仕合わせのうち

・新聞に　IPS治療の
　治験みて　光明差せども
　余命届かず

・先見えぬ　介護の日々に
　萎える日は　「お遍路日記」を
　開き鞭打つ

・家事、介護と　体力勝負の
　毎日は　「ますらお派出夫」
　惚けの暇なく

・年越しの　蕎麦つゆ仕込み
　アク掬い　年の憂きこと
　沸々浮かび来

・吾とともに　箱根駅伝
　激闘を　車椅子から
　乗り出し観たり

・末吉は　末広がりと
　受けとめて　蕾の梅に
　願い結び来



会津の酒　末廣
会津杜氏　津佐幸明（昭和54年卒）の醸し出す、会津の地酒


インターナショナル・サケ・チャレンジ2023
最優秀大吟醸・吟醸受賞　大吟醸　玄宰
オンラインショップも是非ご利用ください！　末廣酒造
末廣酒造株式会社
博士蔵　福島県大沼郡会津美里町字美宮里81　☎0242（54）7788
嘉永蔵　福島県会津若松市日新町12-38　☎0242（27）0002


三遷亭
兼好


「東京若商会」の思い出！

鈴木　稔
（昭和37年卒・第14回）

私は、定年退職後、同級生の近藤俊博君に誘われて、毎年、6月に上野精養軒で開催される東京若商会に参加しました。卒業後、初めて会う同級生と話が弾み、若商時代に戻り、すぐに意気投合しました。懇親会では、民謡「会津磐梯山」で盆踊りを子供の頃から半世紀振りに、はしゃいで踊りました。

その後、忘れかけていた校歌と凱旋歌「青垣山をめぐらせる…」を学生気分で声を張り上げて歌いました。

総会・懇親会以外では、亡くなられた三瓶英雄先輩企画で人気の「名所旧跡巡り」には毎回参加し、素晴らしい内容で、感激・感動して何時までも心に残っています。

また、東京若商会の会員で我々の同級会の新年会、忘年会、クラス会、先生の墓参り、会津の神社仏閣巡り、母校の見学会、お城（鶴ヶ城）お花見会、旅行会等を計画・実行して、楽しい思い出をみんなで沢山作りました。

東京若商会では、当初、同級生が10名程度の参加で会場の中央当たりのテーブルでしたが、昨年は、参加者5名でテーブルは来賓席後ろの席まで前に進みました。亡くなった同級生や体調不良で参加出来ない方も多く、高齢化が進み年々寂しくなっています。私は、若商同級生の仲間と会ったり、スマホでラインをしたり、イベントに参加して仲間からいつも元気をいっぱい貰っています。又、私は、80歳で車の運転、ゴルフ、1日5000歩のウォーキングをやめようと思っていましたが、仲間から「人生100年時代だよ！」と励まされ、もう、暫く頑張ることにしました。



若商古希の会　平成25年10月11日


56年ぶりのクラス会　芦ノ牧温泉 2017. 4. 20

東京若商会の運営やイベントを献身的に実行して頂いている役員の皆さまには、感謝に堪えません。東京若商会は、今年、創立97年を迎えます。これからも、後輩達がしっかり先輩からの襷を繋いで、母校愛を持って東京若商会の絆を更に深め、ますます発展することを心から願っています。

水仙

室井　軍三
（昭和39年卒・第16回）

我が家の水仙の8割は「ペーパーホワイト」で真白で小さな花が咲き、香りも良く春の訪れを感じられます。

球根の植え付け時期は9月下旬から11月下旬が適期。開花は3月上旬から4月下旬。花が終わったら花がらを摘み取る。

花が終った後の水仙の葉は旺盛においも茂りますが、絶対に切りとらないでください。見た目が悪いときは支柱をたてて葉を束ねて7月下旬から8月上旬まで管理をして、枯葉になったら球根を掘り起こしネットの袋などに入れて風通しの良い涼しい場所で保存します。鉢植えの場合は3年間植えっぱなしでも大丈夫ですが、3年過ぎると鉢いっぱいに球根が増え小さな球根となり、花が咲かない球根となってしまいます。

水やり、肥料やり、病虫害予防はNetで検索して対応してください。管理が良ければ球根も増えて、沢山の花が毎年楽しめます。



私の公民館活動

長谷川　哲雄
（昭和43年卒・第20回）

令和7年5月相模原市教育長から公民館長を任命されました。地元の推薦と公民館運営協議会の承認を経ての任命になるようです。

皆さんは公民館にはどんなイメージをお持ちでしょうか。会津に住んでいた頃、隣に公民館があり、いつも部落の人達が集まって、会議をしたり宴会をしたりわいわいガヤガヤ、楽しそうに集会所として活発に利用されていた事を記憶しています。

では今の公民館はどうでしょうか。集会所としての利用は同じようです。設置目的が社会教育法で定められ、地元居住の方々の趣味活動や図書館を備えていますので学習、調理室を利用した料理教室、ヨガやダンスなど様々な活動に利用されています。人生には幼児教育、学校教育そして社会教育がありますが、生涯学習の場として利用されています。宴会利用は禁止されています。皆さんも公民館があれば是非利用してみては如何でしょうか。

出前授業を通して思うこと

池田　俊子
（昭和44年卒・第21回）

タイのチェンマイにある学校で2年ぶりに出前授業を行ってきた。

教室は扇風機から冷房にかわっていた。久し振りのランプーンでの授業とあって、手のひらはタイ語で真っ黒になっていた。発音は多少異なるかもしれないが有り難いことにみな興味深く聞いてくれた。おかげさまで緊張していたのにもかかわらず、スーッと溶け込んでいくのを感じた。

今回の授業は、

①日本のお城と戦国三英傑の概要と性格について、自分の性格との比較やクイズを入れての日本語発表をする。

②抹茶の入れ方や飲み方を知るなどを通し、日本に興味関心を深めることを目標に行った。

資料のお城の画像は以前カレンダーとして先輩から頂いたものを再利用した。とても美しく造りが分かりよい資料となった。

日本語を履修している生徒は高校生で1年生は20名、2年生6名、3年生7名で午前、午後で行った。生徒たちは日本に興味関心があることは勿論である。

「日本へ行ってみたいです」と答えた生徒は全員、何をしたいかに対しては具体的な地名をあげ「ラーメンを食べてみたい。」また、ラーメンの種類を具体的に入れて発表する生徒、「寿司を食べたいです。」いくらと寿司種までいう生徒、午後のクラスになると「日本でアニメをたくさんみたいです。アニメの専門学校で勉強したいです。」と具体的になり、今までの学習の成果がでていた。

三英傑の性格と自分との分析では徳川家康タイプが多く、豊臣秀吉タイプは少なかった。タイ人はおおらかで陽気な人が多いと言われている。仏教徒が多いため、人間関係を大切にする人が多いようだ。織田信長タイプがいなかったのはこのような影響もあるのだろうと考える。





〇〇の温泉に入ってみたいという生徒も数名いた。タイではシャワーが一般的である。水を桶にためて浴びている家庭もまだまだある。また、トイレは洋式便座が職員室、保健室にあったがウォシュレットではなかった。一般的にはまだ和式トイレに反対向きで座り、桶にある水で流すトイレである。日本では生活文化が高まり、当たり前と思っていたことがタイではそうではないことが多い。

学校の近くや街を歩いても、店のメニューにもたくさん見られた日本語も今は見られなくなった。英語、中国語、フランス語が多い。少し心寂しいものを感じるが経済力の影響である。

1人旅でいろいろあったが、会津魂で何とか乗り越えることができた。

会津魂は最高！

今回もさらに元気をもらい、言葉はあまり通じなくても「通じ合いたい」と思う気持ちがあれば、どんなに美しい言葉よりも心より添えあえることを確信した。あなたの笑顔が素敵!!と言われたことが心に響いた。

これからも一握りの応援であるが続けていきたい。

胃がんで闘病生活

星　留男
（昭和44年卒・第21回）

昨年（2024年）5月に健康診断（がん検診）を受けた結果、胃がんの疑いありだった。それは胃カメラ検査によって判明された。定年退職するまでは、会社指定の病院で人間ドックを受けていた。胃カメラ検査ではなく、バリューム検査で胆のうにポリープがあるくらいで他に異常は見られなかった。

それなのに、今回の検査で癌の疑いがあると聞いてちょっと動揺した。もっと詳しく調べるために大きな病院がいいとのことで地元の市立病院を紹介された。

そこで又、胃カメラの検査になり、口とか鼻からチューブを入れるのは嫌なので全身麻酔にしてもらった。寝ている間に終わるから楽だった。その結果、やはり胃がんであると告げられた。それで手術することになったが、市立病院では手術が難しいので関連病院の慶応義塾大学病院を紹介された。これで3ヶ所目の病院。

又、胃カメラの検査（全身麻酔）。手術する前に内視鏡でがん細胞を摘出することになった。1週間程で退院した。ところが、内視鏡ではがん細胞を取り切れず、顕微鏡でリンパ腺に転移してないかどうか調べる事になった。その結果、リンパ腺まで広範囲に広がっている深いものだった。それで手術することになり、4、5時間の手術で胃を全摘出した。

術後は痛くて、妄想的な夢を見たり、夜もぐっすり眠れなかった。内視鏡とは違って入院が長く2週間程となった。手術の時期は暮れの押し詰まった12月だった。正月は自宅で過ごせるようにと先生の図らいで12月中に退院出来た。

年が明けて2025年1月より、抗がん剤治療が始まった。2時

間程の点滴と2週間分の飲み薬、1週間休み。これの繰り返しが半年間続いた。抗がん剤治療が終わったのは昨年の7月中旬。今度は抗がん剤治療の副作用が出てきた。めまい、だるさ、立ちくらみ、むくみ、手足のしびれ。立ちくらみと手足のしびれはいまでも続いている。食べたい意欲はあるけど、食べ物、飲み物を身体が受け付けず食事に苦労した。そのために体重が10kg減ってしまった。

最近になってやっと食事が出来るようになり、飲み物も普通に飲めるようになった。体重も8kgほど戻ってきた。ただ、夜中にお腹が空いて2時間ごとに目が覚め、食べることが続いて熟睡できていない。

回復するまでまだ時間がかかりそうで、毎年参加している若商会、同期会にも欠席している。回復するのは気持ちと時間が解決してくれると思い、強い気持ちと回復する時間を待つばかり。早く回復して、趣味のマラソン大会、そして、今年の若商会、同期会に参加できるよう頑張っています。

とろろご飯

三浦　新治（昭和44年卒・第21回）

師走も大詰めとなったとある日の新聞に、次のような投稿記事を見つけた。「結婚して最初のお正月を夫の実家で迎えた際、元日を『とろろご飯』で祝うことに驚いた。」というもの。この女性の実家では「三が日の朝はお雑煮」と決まっていたので驚いたのは無理もない。

この記事を見て小生の会津のふるさとの実家を思い出した。実家では元日はとろろではないものの「大晦日・鮭、元日・そば、2日・餅、3日・とろろ、4日・雑炊」の習わしがあった。このことは、随分前のこの会報に類似の投稿をさせていただいたことも思い出した。

正月に「とろろ」を食べる地域はどこか、ネットをみると、東北や北関東の一部地域、長野や岐阜県美濃地方などとあり、いつ食べるかについては、3日が多いが、元日、2日もあるようだ。

由来は「長く伸びるから縁起がよい」、「松の内に食べると風邪をひかない」、「1年を健康に過ごせるように」などの記述も。前出投稿者の夫の実家は松本で、投稿者の友人で実家でやはりとろろを正月に食べるというその方は信州伊奈出身とのことで、その風習はところどころにあるようだ。

冒頭の投稿内容は50年以上前の出来事で、以来、投稿者は埼玉に住む現在も「元日とろろ」を続けており、子供たちはそれが当たり前と思っているらしい。これに関して小生もふるさとを離れて50年以上経つが、亡き母の「三日とろろ」は味わい深く懐かしく思うものの、ふるさとを離れて転勤族であったこともあり、現居住地では申し訳ないがそこまで継続的とはなっていない。



ふるさと会津でも地域により各実家により異なるかもしれないが、先輩諸氏のところはどうだったですかね。「とろろご飯」を食しながら談義したいものである。

東京若商会同窓会に参加しませんか！

阪谷　サヨ子（昭和45年卒・第22回）

令和7年6月14日の同窓会で第96回を迎えました。これも一重に諸先輩方のご苦労に感謝申し上げます。

高校を卒業してから2～3年は総会に参加しましたが、知らない人ばかりで、とても寂しい思いをしました。その後は子育てや家庭の事情で参加できませんでした。

最近、参加できるようになり、世代を超えて色々な人と高校時代の思い出を話すと時間を忘れてしまいます。

高校での指導会では先輩がとても怖かった事、応援歌の練習の時は応援団が怖かった事、膝丈の雪の中を駅まで歩いた事、電車通学で往復2時間もかかった時間、学校に着いてから授業が始まるまで1時間もあった時間、予習も復習もしないでただ無駄な時間を過ごしてしまった事。とても反省しています。

先日東京新聞に、埼玉県の教育委員会の記事があり、上級生

お菓子で描く会津の風土
お菓子の蔵 太郎庵
相談役員　目黒督朗（昭和43年卒）
代表取締役　目黒徳幸（平成8年卒）
取締役　目黒（大堀）留美子（昭和44年卒）
本社・工場／〒969-6515　福島線河沼郡会津坂下町字福原前4108-1
TEL（0242）83-3267　FAX（0242）83-0184
ホームページ http://www.taroan.co.jp

上野 精養軒
ご宴会・ご婚礼・レストラン
上野公園内
☎(03) 3821-2181 (代)
www.seiyoken.co.jp

が入学直後の新入生に校歌や応援歌の歌唱指導をする際、上級生が新入生の近くに寄って大声で怒鳴りつけたり、個別に指名して1人で歌わせたりと不適切な指導があり、不登校や退学をした生徒がいたので、学校側に威圧的な言動をせず、人権に配慮するように指導をしたそうですが、私たちは辛抱できたのに今の生徒は辛抱が足りないと思いました。その生徒達が社会に出てどんな仕事が出来るのか考えさせられました。

総会後の懇親会では食事も美味しいし、演歌歌手が出演するなど大変工夫が凝らされていて楽しいひと時を過ごす事間違いありません。どうしようか迷っている人は1度参加してみてください。



私の健康法2

小林　謙二（昭和48年卒・第25回）

去年の11月頃、たまたまテレビをつけたらタレント・俳優の大村崑（94歳）が、大股でスタスタ歩き、その後スロースクワットを5、6回淡々と行っておりました。それを見ていた俳優の橋爪功（84歳）は、『こりゃバケモノだ!!』と驚嘆しておりました。

私もビックリしたのを憶えております。その後、今年に入って、医師のどなたかが言っていた『人間は歩ける限り死なないものだ。』との言葉を思い出しました。

そこで、私もスタスタ歩き元気に過ごしていくためにスロースクワット（4秒かけて、ゆっくり腰を下ろし、4秒かけて、ゆっくり立ち上がる）を実践し始めました。

調べてみると、筋肉の量は何もしないでいるとどんどん減っていき、70代になると若いころの半分ぐらいになってしまうそうです。但し、筋肉は体の中で唯一何歳になっても増やすことのできる器官との事。

70代以降でも筋トレを行うと筋肉を増やすことができるそうです。効果として軽い負荷なのに筋トレのような効果があり、ゆっくりとした動きだから無理なく行え、多くの筋肉が鍛えられ健康効果が高いようです。また足腰が丈夫になり認知症予防や免疫力アップにもなるそうです。

私はお金がないのでジムへは通えませんので、自分の体重を利用したスロースクワットを朝の散歩で柔軟体操と一緒に取り入れています。まだ2週間ぐらいですが足の太もも、ふくらはぎ、などの筋肉が鍛えられてスタスタ歩けるようになってきました。血流改善や転倒防止にも繋がっています。

この頃思うのは、貯金よりも貯筋が大事だと思っています。既にスロースクワットを取り入れている方もいると思いますが、まだの方は、試してみては如何でしょうか。

そして、東京若商会同窓会に参加しませんか！



懐かしい友との再会に感謝

佐藤　紀恵子（昭和50年卒・第27回）

高校を卒業して50年が経過し、その間、毎年、総会の案内はいただいていましたが、子育てや仕事の関係で、なかなか出席のきっかけをつかめずにおりました。

令和6年11月に、50年卒会発足の案内をいただき、この機会に懐かしい同期の皆様と再会するチャンスと考え参加しました。

昔の面影が残る皆様とのお話は、まるで高校時代に戻ったようで、時間が経つのも忘れ、楽しいひとときを過ごすことができました。この会が総会参加のきっかけとなり、令和7年に出席させていただきました。

総会では同期の皆様とテーブルを囲み、和気あいあいとした雰囲気の中で、大抽選会で盛り上がり、最後は大きな輪になり会津磐梯山を踊り、とても楽しい時間を過ごすことができました。

このような会に参加できたきっかけを作ってくださった同期の役員の皆様には感謝しております。

50年も経つと連絡が取れない方もいらっしゃると思いますが、30名近くの方々と連絡を取り、ほとんどの方が一言添えて返信されているのを見ると、役員の皆様が丁寧にやり取りし、繋げてくださっているおかげだと感じます。

これから先も続くであろう東京若商会に参加してくださる方が増えていくことを願っています。

結びに、東京若商会の益々の発展と、参加された皆様のご活躍とご健康を心より祈念いたします。

地域最大級！あなたの近くの頼れる法律事務所
ときわ綜合法律事務所
● 初回相談（30分）無料！ ● 地元で20年以上の実績と信頼。
● 分野を問わずお気軽にご相談ください。● 所属弁護士11名
● 当日の相談、日曜の相談も対応できます。
TEL 047-367-5544　〒271-0091 松戸市本町18-4 NBF松戸ビル5F
交通至便！　ときわ綜合法律事務所　検索
JR松戸駅西口 徒歩1分　代表弁護士 小野光寛（昭和45年卒）

トルコ放浪記
～ヨーロッパとアジアの架け橋を歩く～

根本　文昭
（昭和50年卒・第27回）

令和7年6月18日に羽田を出発して、イスタンブールへ。7月5日に成田に帰国。トルコで18日間の放浪ひとり旅を楽しんできた。

キリスト教が国教のローマ帝国が、395年に東西に分裂した。西ローマはイタリアに残り、東ローマはコンスタンティノープル（現在のイスタンブール）を首都とし、ビザンツ帝国とした。1453年にオスマン帝国に滅ぼされ、そのオスマン帝国は1922年に滅亡した。

トルコには、紀元前の遺跡、3世紀前後の初期カトリック教会、ビザンツ時代のギリシャ正教会（ロシアや東欧に分布した東方教会）、オスマン時代のモスクなどの世界文化遺産が多数現存している。さらに、文化と自然の複合世界遺産にパムッカレとカッパドキアが登録されている。

訪問した町は全て世界遺産。先ずはイスタンブールから放浪を開始。見どころ満載のため後述！→次の訪問地は、オスマン朝初代・2代の国王の廟があるブルサ→パソコンなどに侵入して悪さをする「トロイの木馬」ウイルスの呼び名となったトロイ遺跡→劇場や図書館などが良く保存されている世界最大規模の都市エフェソス→温泉水によって造られた石灰棚のパムッカレとBC190年に石灰棚の上の高原に開かれた都市ヒエラポリス→BC7000年に農耕や牧畜などを行っていたチャタルホユック遺跡（コンヤの町からアクセス）→カッパドキアでは、バルーンに乗って、多数の奇岩を上空から俯瞰→最後の訪問地は、首都アンカラ。



イスタンブールは、ビザンツとオスマンの2つの帝国の首都として1600年間繁栄した。先ずはアヤソフィア。元々は360年に完成して、ギリシャ正教の大本山だった。しかし、1453年にトルコに滅ぼされ、モスクに変えられた。イスラム教は偶像崇拝でないため、内部のキリストや聖母マリアなどのモザイク画は全て塗りつぶされた。モザイク画は1931年に発見された。聖堂内の荘厳さや多数のモザイク画の素晴らしさには圧倒された。

その他の見学地は、トプカプ宮殿（最大の見どころはハレム。やはり〝ハーレム〟ではない。単にスルタンと特定の宦官以外立ち入り禁止の私室）。ブルーモスク（1616年に完成）、地下宮殿（4世紀から6世紀頃の巨大水がめ）。ヨーロッパとアジアの架け橋のガラタ橋とそのボスポラス海峡を巡るクルーズである。ハマム体験は必見。トルコ風呂でサウナと垢すり。日本の〝トルコ風呂〟とは全く違っていた！

トルコには18の世界遺産があるが、9つしか訪問できなかった。さらに、残念だったのは、日本の若者同様にトルコの若者も英語が話せず、コミュニケーションが容易でなかったこと。さらにコンヤのように全くアルコールの飲めない町があったこと。（2日間飲めないとは残酷！）→が、しかし、隣町までタクシーで買い出しに！→部屋で風呂上りに一杯。困っても人の情けで何とかなるといつも思う放浪の旅だった。


（アヤソフィア）


（教会内部のモザイク画）

芳賀清喜税理士事務所
税理士　芳賀 清喜　昭和 48 年卒（第 25 回）
〒169-0075 新宿区高田馬場 4-10-8 HIK ビル 202
TEL・FAX 03-3365-5933
業務内容
税務･経営相談･決算･申告･税務代理･その他税務一般

福島の旬のモノを販売！魅力を発信！
日本橋 ふくしま館
MIDETTE

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町4-3-16
柳屋太洋ビル 1 階
営業時間／10:30～19:00
TEL 03-6262-3977

人生はひまつぶし

谷吹　利男
（昭和50年・第27回）

（1）「年をとったら好きなことだけやりなさい」そんなご時世だが、これと言ってやりたいことがない。やればすぐ飽きる。日記帳はせいぜい3頁。毎年、「今年こそは」と張り切るのだが、いつのまにかメモ用紙に。そんなにメモを取ることもないので、山積みだ。「趣味は」と聞かれれば答えに窮する。趣味を楽しんでいる人がうらやましい。多趣味の人を私は「賢者・人生の達人」と呼んでリスペクトしている。趣味はあまたあれど、読書・旅行・映画鑑賞などが代表格であろう。

（2）「頭がいい人は、必ず本を読んでいる」これを聞いて飛びついたのが50歳の時。まさに「50の手習い」だ。しかし、登場人物が多くなると誰が誰やらわからなくなる。かくして相関図をかくハメに。ひょっとして私は「大器晩成」きっとそうだ。そうあってほしい。

私のお気に入りは『博士の愛した数式』『父の詫び状』入門される方『注文の多い料理店』会津っぽの『坊ちゃん』などはいかがでしょうか。それでも、「ちょっと」と言う方は「誠に残念ではありますが、この話、御縁がなかった」ということで。

（3）旅行は「もういくつ寝ると」のワクワク感がいい。現地での「ナンヤコレ」「スゲエー」もいい。

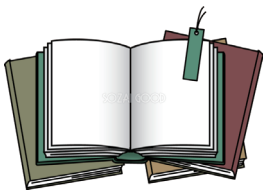
旅行とは言い難いが、会議で京都の仁和寺（にんなじ）に泊まったことがある。板の間に座布団、静寂、自ずと背筋がピンとなる。「座禅の修行に来たんか～い」と1人ツッコミ。会議中は今日の夕飯 → お寺の精進料理 → なぜか「たくあん2切れ」が頭にこびりついて離れない。いざ、実食。京料理で実に美味しい。「おかわり」「かたじけない」

（4）映画は若商の時、隣の席のM君の甘い誘惑に導かれ「労映」の会員となった。月200円の会費で招待券1枚と割引券数枚。当時は主演俳優・映画音楽・ラストシーンの「三役揃い組」で大ヒット間違いなしだった。

『明日に向かって撃て』でR・レッドフォードに憧れる。『大いなる勇者』で爆上がり。カッコイイ。『いちご白書』も青春の1ページ。『平和を我等に』（J・レノン）を歌いながら体育館の床を叩くシーンが忘れられない。後に『いちご白書をもう一度』のヒット曲も生まれた。作詞が荒井由実だというからユーミンもこの映画、感動したに違いない。

（5）こんな考え方がある。「人生は死ぬまでのひまつぶし」なげやりな気もするが、なるほどとも思う。どうせひまつぶしなら、自由気ままに好きなことをしていたい。趣味でもちょっとしたこだわりでもいい。何をやるかは人それぞれ。それに優越はない。自分らしさがあるだけだ。金子みすゞがこう言っている。「みんなちがって、みんないい」

さて、あなたのひまつぶし、何をしていますか。楽しんでいますか。人生、楽しまなくっちゃ、損・損。



短信

令和7年度同窓会総会出欠葉書「自由通信欄」からの抜粋

小森　茂
（昭和27年卒・第4回）
自転車で転倒したため、欠席します。

芳賀　三良
（昭和27年卒・第4回）
体調不良で残念ながら、欠席致します。

小山　文美
（昭和30年卒・第7回）
老化著しく歩行困難につき、欠席。

本田　嘉則
（昭和33年卒・第10回）
外科医院に通院中です。ご盛会をご祈念申し上げます。

金田　靖弘
（昭和34年卒・第11回）
今回も欠席します（不幸あり）。



半導体のことなら
ELECTRONICS
株式会社 若松通商
https://wakamatsu.co.jp/waka/
S39年（16回）卒　室井 軍三

青山　典
（昭和 34 年卒・第 11 回）
会津猪苗代町出身
福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会 幹事

木村　英二
（昭和34年卒・第11回）
役員の皆様ご苦労様です。高齢となり、体調不調にて欠席致します。盛会を祈ります。

弓田　博
（昭和34年卒・第11回）
都合がつかず、欠席します。ご盛会を祈ります。

小渕　紀子
（昭和35年卒・第12回）
すでに予定が入っており、残念ですが欠席です。

橘浦　節子
（昭和35年卒・第12回）
元気に日々頑張っております。今回は行事が重なり、欠席です。皆様によろしく。

古田　イチ子
（昭和35年卒・第12回）
元気に暮らしていますが、足元がふらつくようになりました。歩いたり、ちょっとした運動もしているのですが、骨密度が下がるばかりです。

鈴木　昭一
（昭和36年卒・第13回）
健康上の理由により欠席致します。会のご盛況と益々のご発展をお祈り致します。

新井田　茂司
（昭和36年卒・第13回）
毎週土曜日は、健康麻雀の例会があり、申し訳ありませんが欠席いたします。

渡部　和義
（昭和36年卒・第13回）
欠席いたします。幹事の皆々様、ご苦労様です。

林　惣一
（昭和37年卒・第14回）
今年（令和7年）12月で82歳になります。軽い散歩と週1回の囲碁の会の対局を楽しんでいます。

羽山　桂一
（昭和37年卒・第14回）
所用のため、大変申し訳ありませんが欠席です。

田崎　規夫
（昭和38年卒・第15回）
体調不良のため欠席致します。

馬場　浩
（昭和39年卒・第16回）
体調不良で本年はムリ。

渡部　隆章
（昭和40年卒・第17回）
申し訳ありません。欠席します。

坂井　徹夫
（昭和40年卒・第17回）
いつも役員の方々、お世話になります。年令とともに、体調不調です。今回は欠席です。

仲島　義嗣
（昭和40年卒・第17回）
仕事があり出席できません。皆様によろしく！

荒川　静子
（昭和41年卒・第18回）
東京若商会総会開催おめでとうございます。参加して皆様にお会いしたかったのですが、実家の所用にて今年は欠席させていただきます。

田中　益代
（昭和42年卒・第19回）
御盛会をお祈り申し上げます。

渡辺　美喜子
（昭和43年卒・第20回）
いつもありがとうございます。大変なお仕事をいつもしていただいて申し訳なく思います。皆様お身体を大切にしてください。

菅野　由美子
（昭和44年卒・第21回）
元気にしています。

星　留男
（昭和44年卒・第21回）
療養のため。

阿部　清功
（昭和45年卒・第22回）
楽しみにしていましたが、入院のため出席できず、残念です。

伊藤　美子
（昭和45年卒・第22回）
昨年（令和6年）11月に自転車で転倒し、左手首を骨折。6月にビスをとる手術をすることになっています。日程が未定なので、今回は欠席させていただきます。

朝山　律子
（昭和50年卒・第27回）
いつもお世話になっております。会報に母校の校舎や鶴ヶ城の写真があり、とても懐かしく拝見しました。ありがとうございました！

遠藤　輝喜
（昭和50年卒・第27回）
当日、自治会の総会と重なり

室井 初男
（昭和 43 年卒・第 20 回）
下郷町出身

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
副会長

長谷川 のり子
(昭和41年卒・第18回)
会津若松市出身
東京都中野区在住

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事・行事・会計



ます。自治会の役員のため、申し訳ありません。

岡田　マリ子
（昭和50年卒・第27回）
幹事の皆様、委員の皆様、いつもありがとうございます。すでに別の予定があり、今回も参加できず残念です。S50年卒の皆様にもよろしくお伝えください。ご盛会をお祈りいたします。

笹木　美智枝
（昭和50年卒・第27回）
同窓会の案内、ありがとうございます。企画、取りまとめに感謝申し上げます。是非とも出席したいのですが、当日は同僚のスタッフが墓まいとのことで、お休みがどうしてもとれなく出席できません。またの機会にお会いできることを楽しみにしております。

佐藤　正子
（昭和50年卒・第27回）
申し訳ありません。今回も欠席とさせていただきます。盛会を祈念いたします。

池田　喜一郎
（昭和51年卒・第28回）
5月30日に会津若松市にUターンすることになりました。これまで大変お世話になり、感謝申し上げます。

越田　賢二
（昭和52年卒・第29回）
昭和56年3月に大学卒業後、都内信用金庫に入庫。今年（令和7年）6月に総代会にて役員退任いたします。44年間勤務できたことは、若商時代に培った精神の賜物と、強く思っております。
同窓会総会には所用のため欠席させていただきます。ご盛会をお祈りしております。

大町　富江
（昭和53年卒・第30回）
大変申し訳ございません。介護の付き添いで、出席できません。

五十嵐　仁
（昭和54年卒・第31回）
若商会の運営ありがとうございます。

渡部　幸恵
（昭和56年卒・第33回）
役員の方々、何時もご苦労様です。地元の自治会の活動のため出席できず、申し訳ありません。ご盛会をお祈り申し上げます。

齋藤　治男
（昭和61年卒・第38回）
都合がつかず申し訳ございません。会報ありがとうございました。

波田野　崇
（昭和61年卒・第38回）
同期の佐藤英幸君から熱烈なお誘いをいただき、今年はぜひ参加したいと思っておりましたが、あいにく出張と重なってしまいました。誠に残念ですが、次回こそは参加させていただければと思っております。ご盛会を心よりお祈り申し上げます。

大竹　豊和
（平成元年卒・第41回）
仕事と重なり、今回は出席が叶いません。申し訳ございません。ご盛会をお祈り申し上げます。

菅家　広之
（平成3年卒・第44回）
大変申し訳ありませんが、仕事の都合で欠席させていただきます。

同期会報告

「三四会」今年も開催

上杉　敏男
（昭和34年卒・第11回）

今年は趣向を変えて、懇談とカラオケを併せて実施しました。ときは令和7年10月10日、ところは浅草の「ラッキー」なるカラオケ店。ここは中国人の美人ママさん？　が経営する店……。元々は東京若商会のメンバー達と1度入ったことがあってなし、それでやってみたんじゃ。
時間は午後1時から同4時半まで。前半は8名による料理をはさんで軽やかな懇談、後半が4名によるカラオケ大会。前半は、最近のままならぬ行動の日々、病気との慣れ親しんでいるサマ、あるいは決然と別れた行状等…。後半のカラオケでは、春日八郎のは、歌んなければなんにぇ、と誰かのたまう。おいらは霧島昇の「白虎隊」をガナル（詩吟入りじゃ）。負けじと青山氏が堀内孝雄の「愛しき日々」を優雅に歌う。そして、みんな、おぼつかない足取りで帰路に散



内田　京子
（昭和52年卒・第29回）
会津美里町出身
福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事

上杉　敏男
（昭和34年卒・第11回）
会津若松市出身
千葉県船橋市在住
福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事・行事
会報に「ビバ！映画音楽」掲載中

っていきました。

幹事「来年も集まってくんつぇよ…」と叩頭（こうとう）す…。ま、そんなわけで今年も写真撮んの忘れっちまった！

【参加者】（敬称略。傍線部氏名はカラオケにも）

青山、五十嵐、上杉、小林、佐々木、鈴木、山内、弓田

熱川の別荘を訪ねて

田部　裕子（昭和44年卒・第21回）

踊り子号東京駅12時発9番ホーム6号車。

東京駅に着いたものの9番ホームってどこ？　切符はどこで買うの？　右往左往しながらホームに着いたのは10分弱前。三浦さん、山田さん、佐藤さんを見つけホッ。

電車が来てやっと旅の始まりです。4人は揺れる車内でお昼をとり、海を眺めながらとりとめのない話をして過ごします。

午後2時半過ぎ熱川に着き、別荘では俊子さんと愛犬が出迎えてくれました。1日目は庭で豪快にバーベキュー。高い場所にあるので、眼下には海と島が見えるはずでしたが、低い雲に覆われていて島ははっきりとは見えませんでした。残念！

バーベキューの後は蛇口をひねると温泉が出るという、夢のような体験です。満天の星は見えずとも、湯舟に浸かって温泉満喫！

2日目、俊子さんの案内で稲取漁港へ。海を眺め市場を見たり写真撮影したり。潮の匂いが心地良い。今夜は餃子パーティーとの提案で、俊子風特選餃子と私風特別餃子をそれぞれ作ることに。思い思いに材料を刻み包んでいきます。できた餃子を焼く前にまた温泉タイム。なんと贅沢なこと！

夜の楽しみは宴会です。ビールで乾杯し日本酒、ワインと進みます。ホットプレートで餃子を焼き、お刺身、手造りカボチャサラダ等々、ご馳走が並びました。

食事の後はカラオケ大会です。思い思いに歌い、途中ダンスまで出て思う存分楽しみました。池田さんご夫婦によるデュエットを最後に、2日目の夜は更けて行きました。

最終日、朝の内は雨模様でしたが、熱川の駅に着く頃には日が差してきました。思い思いに弁当やつまみ、お酒類を調達して乗り込み〝揺れる車内レストラン〟で旅の最後となる昼食会を楽しみました。

池田ご主人、愛犬クン、同期の4人さん、お世話さま、楽しゅうございました。「コロナ後、久しぶりに同期会を開催！」





❖❖❖16名集う・花のS45年同級会❖❖❖

本名　喜久造（昭和45年卒・第22回）

令和7（2025）年度の同級会は、令和8年1月23日（金）、梅の花　上野広小路店にて開催した。還暦を機会に『花のS45年同級会』を立上げ、今回が第11回目の開催となった。

この間、東日本大地震や台風、そしてあの新型コロナ感染などで中止が3回あった。

また、1度芦ノ牧温泉一泊で会津の同級生に声をかけて実施した。（残念ながら地元の仲間に同級会と言った考えは無いようです。）

幹事は会長兼世話人の本名が初回から引受け、同級会全体を取り仕切り引っ張っている。今回は、酒井・阪谷・亀井の3人が当日手伝ってくれた（感謝!!）。

11月中旬に登録会員20数名に開催案内出状。16名から『参加』の返事があった。参加予定者には開催1週間前着で『リマインドはがき』をお届けしフォローした。

当日は予定通り16名が時間までに揃ってヤレヤレ。初参加は阪谷サヨ子さんの声掛けで天谷

WATANABE LIESENBERG
TAX ACCOUNTANTS' CORPORATION
税理士
渡部 佐吉
Sakichi Watanabe
税理士法人 渡邊リーゼンバーグ
本社　東京都港区東新橋1-9-1 東京汐留ビルディング17階 〒105-7317
TEL 03-3569-3330　FAX 03-3569-3331
支社　東京都大田区山王2-19-12 〒143-0023
TEL 03-3776-3000　FAX 03-3433-2201
s-watanabe@watanabe-firm.or.jp　http://www.watanabe-firm.com

本名（ほんな）　喜久造（きくぞう）　若松商業高校 本部同窓会 副会長
同東京支部 東京若商会 会長
（昭和45年・第22回卒業）
若商デパート第14期 社長　大沼郡昭和村出身
一般社団法人 緑内障フレンド・ネットワーク 理事
（緑内障患者の会）、さいたま市シニアユニバーシティ
大宮・岩槻校卒業・各校友会役員として活動中 他
❑趣味：名所旧跡・温泉巡り　❑自慢：市民ランナー・フルマラソン以上距離158回完走
❑元気のでる音楽：ラデッキー行進曲
❑私の人生訓（?）：「人生楽しく・笑って過ごす」



君代さんが登場。みんな笑顔で歓迎。すぐに56年前にタイムスリップし何時ものように以下の次第の流れに沿って和やかな、楽しい宴席となり盛り上がった。

今回の同級会次第は、①校歌斉唱、②幹事挨拶、③乾杯、④近況報告（全員）、⑤懇親・懇談、⑥写真撮影、⑦中締めへと。

「梅の花」の上品なもてなし料理と美味しいお酒をいただき、2時間00分があっと言う間に過ぎた。若商卒業56年経過しても一緒に集い旧交を深め合える幸せを改めて実感した次第です。病気に負けるな!!

次回もみんな元気で再会することを誓い合って散会した。お疲れ様でした。みんな元気で。

【追伸・阿部清功君のご逝去】

去る令和7年9月病気で亡くなられました。（74歳）ご冥福をお祈り申し上げます。代表して本名が香典をお届け致しました。（拝）

【今回参加者】（敬称略）

・天谷　君代　・伊藤　美子
・宇内　節子　・生形　修司
・小野　光寛　・亀井　美津子
・國分　公二　・酒井　美代子
・阪谷　サヨ子　・佐藤　喜代美
・佐藤　泰久　・高畑　新子
・長谷川　誠二　・日比谷　恵和子
・目黒　博雄　・本名　喜久造

《総勢16名》



第2回「昭和50年卒会」開催！

根本　文昭（昭和50年卒・第27回）

令和7年11月15日（土）、第2回「昭和50年卒会」を開催しました。初回は6名の参加者でしたが、今回は7名の参加者でした。毎回1人ずつでも参加してくれることを期待しています。

会は12時から上野駅の「音音上野バンブーガーデン」で開催しました。最初に、自己紹介を兼ねて近況報告。その後、葉書とメールに記載されている欠席者からの〝ひと言〟を紹介しながら、会を進めました。

懇親会では、若商在学時代の部活動の話や応援歌指導時の話、卒業後の生き様などに花が咲きました。圧巻は我が会津人の誇り？である会津弁の話でした。高校を卒業して半世紀以上が経つのに、いまだに会津弁が抜けきらないと嘆くが、何となく誇りに思っている同輩。その方言を皆で出し合うが、時折、例えば、会津若松市内出身者と下郷出身者によっては別の方言になるなど和気あいあいと一気に場が盛り上がりました。この歳になって、一口に会津の方言と言っても地域によって異なることを初めて知りました。僅か7名なのに、何と多くの方言が出されたことか、驚くばかりでした。

今年1月からBSで再放送されているNHK大河ドラマ「八重の桜」でも綾瀬はるか（会津まつりで道路からじかにご尊顔を拝見）等が会津弁（方言）を話しています。何も気に障ることなく観ては、時折涙ぐむシーンがあったことを思い出します。同郷の士が集まれば、自然と会津弁になって話しているのが何とも不思議です。この歳になったからこそ、気を遣わなくて会話ができるのが1番です！　次回はもっと多くの同期生によって会津弁で盛り上がることを期待したいと思います。

たくさんのご馳走とお酒をいただきながら、2時間半の会も大いに話に花が咲きました。最後に、集合写真を撮り、次回の「昭和50年卒会」と東京若商会の総会・懇親会への参加を約束して散会しました。

【参加者】（敬称略）

坂下　文夫（旧3-1）
渡部　佐吉（旧3-2）
五十嵐　健（旧3-4）
根本　文昭（旧3-4）
遠藤　輝喜（旧3-5）
岡田マリ子（旧3-6）
馬渡美智子（旧3-6）





馬渡　美智子
（昭和 50 年卒・第 27 回）
会津若松市出身

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事



同好会報告

ゴルフ

「第22回ゴルフ同好会」

佐藤　英幸（昭和63年卒・第40回）

前年同様、令和7年4月15日（火）に千葉県野田市にある「紫カントリーあやめコース」において、令和7年度のコンペを開催しました。

今回は8名の参加者で行い、晴天にも恵まれ楽しいひと時を過ごすことができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

《結果は次の通り》

◆優　勝　佐藤　俊一さん
　グロス108　ネット73.2
◆準優勝　佐藤　英幸
　グロス103　ネット74.2
◆3　位　川副　隆さん
　グロス95　ネット74.6

プレー終了後、簡単に表彰式を行い、飲み物等をいただきながら談笑し、来年の再会を誓って終了しました。

新規会員を募集しています。一緒にプレーを楽しみませんか？お気軽にご連絡くださいませ。お待ちいたしております。

＊世話人
佐藤　英幸
080-1077-6046

文化芸能鑑賞

文化芸能鑑賞同好会

五十嵐　健（昭和50年卒・第27回）

第8回［みんなで寄席を楽しむ会］を令和7年9月13日（土）、昨年に続き新宿「末広亭」で開催いたしました。

当日は、11時20分：末広亭入場券売り場前に集合、40分：開場（入場）、50分：上演開始のスケジュールで行いました。また、天気は良く皆さん時間前に集合し、会費の徴収、お弁当の配布（伊勢丹に事前に予約し、当日購入）もスムーズに行い、入場後は持参された弁当の方も一緒にいす席で食べていただきました。

末広亭は、こじんまりとした会場で出演者との距離も近く一体感がありアットホームな感じが良いと思います。演目も「落語・講談・漫才・手品・紙切りなど」多く、初参加者の方からも十分に楽しめたとの感想でした。（落語は落ちがあり、講談はなし！）

お忙しい中、10名の方にご参加いただき、ありがとうございました。また、2次会は5名の方が参加され、新宿駅の中華料理店で会食し、懇親を深めていただきました。

今回は、会員25名、役員35名の計60名に案内し、やや参加者が少なかった状況でしたが、令和8年度も、末広亭で9月12日（土）開催の予定です。是非とも多くの会員に、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

初参加者歓迎！　下記の五十嵐までご連絡をお願いします。

【参加者】
本名喜久造、三浦新治、宇月康男、根本等、長谷川のり子、成田トミ子、馬渡美智子、佐藤泰久、柴田光子、五十嵐健

※会費3000円（事務費込）
なお、入場料2700円（シニア料金、通常3000円）、弁当代1400円、懇親会費用は全て参加者負担です。

名所旧跡巡り

豊洲市場見学

上杉　敏男（昭和34年卒・第11回）

今回、従来の趣向を変えてウオーキングを少なくし、名所を1カ所に絞って実施しました。それが豊洲市場見学です。

時は令和8年3月14日、太陽が照るも冷たい風の吹く日。久々に大勢の19名が参加。まず、2F見学者通路を通って青果棟に向かう。ガラス越しにイ、ロ、ハ等に区分されている。仲卸しの業者、野菜・果物、大口の取引が多いので搬入、搬出、作業エリア等市場の流れで分けているんだそうです。

次に水産卸売り場棟に入る。目に付いたのが、でっけいマグ

【連絡先】
幹事長　五十嵐　健
TEL　090-9795-7539
〒339-0068　さいたま市岩槻区並木2-5-2-1007
メール：igarashi11020803@gmail.com

佐藤　順昭
（昭和31年卒・第8回）
南会津下郷町出身
福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事
ユンケル工芸株式会社代表

いがらし　つよし
五十嵐　健
東京若商会幹事長　昭和50年卒
会津美里町（会津高田町）出身
勤務先：大宮区役所福祉課年金相談員
春日部年金事務所：地域型年金委員
○趣味　ゴルフ、ボーリング、温泉巡り　等
○健康づくり　1日8,000歩、階段200段、早歩き20分
○座右の銘　仁義、誠実、思いやり、感謝
〒339-0068 さいたま市岩槻区並木2-5-2-1007
Eメール：igarashi11020803@gmail.com



口の置物。下に説明板があり、「重さ496kg、長さ2・88m、胴回り2・36mで、1986年4月にマグロ延縄漁船幾神丸鹿児島県種子島沖で漁獲、宮崎県の漁港に水揚げされた後、築地市場へ出荷」と記されていた。また、2026年の初競りでは青森の大間マグロが約243kgでなんと5億1030万円で落札されたそうな。なんでそんなに高くなるのか（縁起物だから宣伝になる。有名寿司屋が競り合う。正月のニュースになる）だそう。ちなみによく落とすのが「すしざんまい」の社長。このへんは皆良く知ってンべ。

　続いて同階のせり場所に。下にはがらんとした空間。実はせりは朝5時から始まる。この窓越しに自由に見られるが、早朝、電車は走行してない。車で来るか一泊するか、だそう。

　次に向かったのは3階の飲食店舗エリア。朝から行列の寿司屋、海鮮丼写真いっぱいと天ぷらの匂いのお店等。それらは我が団体でなければ飛び込んでいきたい様なお店がずらり。

　続いて4階の物販店舗。お土産屋、軽食、あまいもん、飲み物、グッズ等のお店が並んでいた。最後に、屋上緑化広場へ。晴海の方、有明の方、高層ビル群、左側にレインボーブリッジが見渡せる。高層ビルに挟まれて、雪帽子をかぶった富士山が「俺を見てよ」と言わんばかりに！　そこだけビル群が遠慮して譲っている感じ。名状しがたい風景だ。朝の強風が今はまったく弱まって、降り注ぐ太陽の下に鎮座してんだ。その風景をバックに全員をパッチリ。12時半に市場前駅から新橋駅に戻って、駅近くのお店で懇親会。いや、もう、市場のことや会津弁も遠慮なく出て盛り上がったなし。「ひったくっちぇる話」はでなかった。





旅行

『ご一緒しませんか』

三浦　新治（昭和44年卒・第21回）

　毎年秋口に実施している旅行同好会としての一泊旅行の集い。

　あとちょっとで創設100周年を迎える東京若商会の中で、旅行同好会は福島第2原発視察旅行を第1回目としてから、令和7年の昨年までで足かけ24年が経ちます。この間、北は福島から南は静岡まで、名所旧跡、神社仏閣などの名立たるところを散策してきました。温泉宿に泊まり、ご当地料理を楽しみました。都会の喧騒を離れ普段味わえない体験ができました。

　そんじょそこらで経験できない寛ぎが若商旅行会にはあります。2次会では会津の懐かしいニシンの山椒漬け、きゅうりの一本漬けなど、料理好きの名物参加者の多大なる協力のもと、一緒に持参する会津銘酒を嗜みながら、若商会の若商会による若商会のための若商会旅行が楽しめます。温泉に浸かって、仲間としての絆も深まります。若商旅行会だからこそ楽しみがそこにあります。醍醐味を堪能できます。課題もあります。近年の諸物価高騰により参加費を安く抑えきれなかったり、常連参加者の高齢化による参加者減少などにより、コロナ禍もあって催行実施ラインに達せず止む無く中止となる場合も。昨年はそうでした。安定して実現できるよう考えてみる必要があります。

　参加資格は若商卒業生であること、その関係者であること、及び旅行に関心のある皆さまです。関心を持ち始めた方はご一報ください。情報をお伝えします。

　今年はどこにしましょうかね。多くの賛同を得て楽しみたいものです。紳士淑女のそこのあなたとあなた！　ご一緒しませんか。

【連絡先】

三浦　新治

☎080-3423-1007

下部掲載の名刺を参照ください。





みんなで盛りあげよう！
愉快に楽しくやりましょう！

東京若商会
副会長
旅行同好会世話人
三浦新治

第21回生（昭和44年卒）　千葉県船橋市在住
城西小→若松四中卒　会津若松市出身

☎080-3423-1007
E-Mail：miurah2604@jk9.so-net.ne.jp

同窓会東京支部（東京若商会）

常任顧問　山田積次

（昭和44年卒・第21回）猪苗代町出身

〒301-0042 茨城県龍ヶ崎市長山5-4-13
090-2211-0630

東京若商会 ホームページ紹介

東京若商会では、会員同士の交流を深め、情報交換の場として、ホームページを設けています。

東京若商会の案内や情報、またゴルフ・旅行・名所旧跡巡り・文化芸能鑑賞の各同好会活動、母校在校生の活躍や部活動戦績などをお知らせしています。

気軽に参加しやすい会にするための一助になることを願っています。是非、覗いてみてください。

また、若商高ホームページともリンクをさせていて、母校の情報にもふれることが出来ます。

皆さんからも、新たな情報やご意見がありましたら、ホームページ内のEメールでお知らせください。ホームページアドレスは次段を参照してください。



会計監査報告書

福島県立若松商業高等学校同窓会・東京支部
令和７年度東京若商会一般会計及び特別会計

上記会計決算報告書について収入、支出及び関係書類を監査いたしましたところ、相違なく正当に執行されていることを認めます。

福島県立若松商業高等学校同窓会　東京支部
東 京 若 商 会
会長　　本 名　喜久造　殿

令和８年４月11日

監　事　青山典
監　事　根本等

東京若商会

東京若商会のホームページにようこそ！

ゴルフ同好会・旅行同好会・名所旧跡巡り同好会・
文化芸能鑑賞同好会などの情報も！

https://wakamatsu.co.jp/wakasho/

『東京若商会』でも開くことができます。
ネット上に校歌、応援歌が流れております。

令和７年度東京若商会一般会計決算報告

福島県立若松商業高等学校同窓会・東京支部
自 令和７年４月 １日
至 令和８年３月31日

《収入の部》　（単位：円）

科目	決算額	予算額	予算比増減	摘要
総会会費	763,000	809,000	△46,000	会員は99名、付添1名参加
年度会費	366,000	360,000	6,000	183名×2,000円
本部交付金	200,000	200,000	0	
寄付金	248,000	150,000	98,000	ご来賓14名、142千円 その他14名、106千円
雑収入	83,411	73,000	10,411	広告・名刺広告等
小計	1,660,411	1,592,000	68,411	
前年度繰越金	1,137,543	1,137,543	0	
合計	2,797,954	2,729,543	68,411	

《支出の部》

科目	決算額	予算額	予算比増減	摘要
総会費	1,246,541	1,187,000	59,541	飲食代、案内資料代、出演料及び景品代等
通信事務費	82,893	102,000	△19,107	郵送通信代・消耗品・会員あて通信費等
交通費	68,002	150,000	△81,998	本部役員会出席旅費補填、年3回
会報出版費	205,910	200,000	5,910	会報印刷代、原稿郵送代等
会議費	71,373	150,000	△78,627	役員会会場費・資料印刷費、茶菓子代等
交際費	30,074	30,000	74	謝礼、他校同窓会祝い金等
雑費	16,600	20,000	△3,400	本部総会広告掲載料
小計	1,721,393	1,839,000	△117,607	
次年度へ繰越金	1,076,561	890,543	186,018	
合計	2,797,954	2,729,543	68,411	

《繰越金及び収入・支出合計》

前年度繰越金	収入合計	支出合計	次年度へ繰越金
1,137,543	1,660,411	1,721,393	1,076,561

令和８年度東京若商会一般会計予算（案）

福島県立若松商業高等学校同窓会・東京支部
自 令和８年４月 １日
至 令和９年３月31日

《収入の部》　（単位：円）

科目	前年度決算額	予算額	前年度決算比	摘要
総会会費	763,000	806,000	43,000	男・女100名8,000円 卒2年等２名3,000円
年度会費	366,000	360,000	△6,000	180名2,000円
本部交付金	200,000	200,000	0	
寄付金	248,000	150,000	△98,000	来賓者15名 10,000円
雑収入	83,411	83,000	△411	広告料会社13社、 名刺広告17名
小計	1,660,411	1,599,000	△61,411	
前年度繰越金	1,137,543	1,076,561	△60,982	
合計	2,797,954	2,675,561	△122,393	

《支出の部》

科目	前年度決算額	予算額	前年度決算比	摘要
総会費	1,246,541	1,280,000	33,459	飲食代、案内資料代、出演料、景品代等
通信事務費	82,893	102,000	19,107	郵送代、消耗品、会員あて通信費等
交通費	68,002	100,000	31,998	本部役員会出席旅費補填、年3回
会報出版費	205,910	162,000	△43,910	会報印刷、原稿郵送代等
会議費	71,373	90,000	18,627	役員会資料印刷、消耗品等
交際費	30,074	30,000	△74	他校同窓会祝い金等
雑費	16,600	20,000	3,400	
小計	1,721,393	1,784,000	62,607	
次年度へ繰越金	1,076,561	891,561	△185,000	
合計	2,797,954	2,675,561	△122,393	

《繰越金及び収入・支出合計》

前年度繰越金	収入合計	支出合計	次年度へ繰越金
1,076,561	1,599,000	1,784,000	891,561

〈令和７年度会費納入者ご芳名〉（納入期間：令和７年４月１日～令和８年３月31日）

＜敬称略＞

会費のご納入ありがとうございました。記載漏れや間違い等がありましたら、ご連絡ください。
また、未納の方は同封の振込票にて納入をお願いいたします。

東京若商会事務局
TEL03(5754)3040
FAX03(3748)6102

【昭和 S27 年卒（第４回）】
東崎 進、遠藤 明男、小森 茂
髙木 満雄、三橋 孝
【昭和 28 年卒（第５回）】
阿部 三代司、佐瀬 善彦、舟田 邦一
【昭和 29 年卒（第６回）】
鈴木 公毅
【昭和 30 年卒（第７回）】
上田 昌源、小山 文美、佐藤 正俊
中野 善次、安川 均
【昭和 31 年卒（第８回）】
酒井 繁、佐藤 順昭
【昭和 33 年卒（第 10 回）】
相田 誠次、猪俣 信儀、杉原 光男
竹俣 幸造、橋本 亮
【昭和 34 年卒（第 11 回）】
青山 典、五十嵐 正吉、上杉 敏男
木村 英二、松川 源郎、弓田 博
【昭和 35 年卒（第 12 回）】
青木 茂男、大川原 和彦、吉津 友弘
佐藤 俊一、田付 良雄、藤田 誠
古田 イチ子、渡辺 治男
【昭和 36 年卒（第 13 回）】
植木 紘一、鹿目 義孝、小林 豊
鈴木 昭一、新井田 茂司、室井 満夫
渡部 和義
【昭和 37 年卒（第 14 回）】
宇月 康男、神内 和典、佐藤 幸雄
鈴木 稔、林 惣一、羽山 桂一
山内 佐内、雪下 正栄
【昭和 38 年卒（第 15 回）】
田崎 規夫、芳賀 勇、本名 義光
吉川 大八、渡辺 明弘、渡部 武禧
【昭和 39 年卒（第 16 回）】
青木 剛、板橋 良寛、伊藤 重義
国府 義次、讃岐 忠守、馬場 浩
室井 軍三、渡部 隆章

【昭和 40 年卒（第 17 回）】
大堀 芳作、奥野 武雄、久家 明夫
齋藤 昇、斎藤 正志、坂井 徹夫
佐瀬 宏、佐藤 誠治、佐藤 好
仲島 義嗣、根本 等、横山 邦彦
【昭和 41 年卒（第 18 回）】
荒川 静子、池田 和雄、薄 一
川島 森夫、田中 洋子、中山 三枝子
成田 トミ子、根本 正弘
長谷川 のり子、星 實、村木 隆蔵
室井 広子
【昭和 42 年卒（第 19 回）】
田中 益代
【昭和 43 年卒（第 20 回）】
川副 隆、鈴木 誠、高橋 清憲
長谷川 哲雄、室井 初男、森田 明男
渡辺 美喜子
【昭和 44 年卒（第 21 回）】
池田 俊子、猪俣 栄子、笠間 ヤス子
菅野 由美子、木村 正廣、佐藤 峰雄
鈴木 泰男、田部 裕子、三浦 新治
目黒 留美子、山田 積次、渡部 静
【昭和 45 年卒（第 22 回）】
阿部 清功、石川 美智子、伊藤 美子
宇内 節子、小野 光寛、亀井 美津子
國分 公二、酒井 美代子、阪谷 サヨ子
佐藤 喜代美、佐藤 泰久、鈴木 盛久
高畑 新子、玉川 助市、長谷川 進
長谷川 誠二、日比谷 恵和子
本名 喜久造、武藤 勝文、目黒 博雄
渡部 英雄
【昭和 46 年卒（第 23 回）】
木村 利男、宮田 とよ子、森 桂子
【昭和 48 年卒（第 25 回）】
小林 謙二、鈴木 徹、宍戸 賢輔
芳賀 清喜、松本 新一、横田 裕一
【昭和 49 年卒（第 26 回）】
伊藤 秀一、小檜山 健、塩原 雄司
吉田 玲子

【昭和 50 年卒（第 27 回）】
五十嵐 健、遠藤 輝喜、大関 睦男
佐藤 安廣、佐藤 紀恵子、根本 文昭
馬渡 美智子、森 珠子、谷吹 利男
渡部 佐吉
【昭和 52 年卒（第 29 回）】
内田 京子、越田 賢二
【昭和 53 年卒（第 30 回）】
大堀 孝男、大町 富江、林 龍一
目黒 義朗
【昭和 54 年卒（第 31 回）】
五十嵐 仁、牧野 隆司
【昭和 55 年卒（第 32 回）】
大堀 浩、佐藤 吉彦
【昭和 56 年卒（第 33 回）】
小林 伸行、渡邊 伯子、渡邊 信郎
【昭和 60 年卒（第 37 回）】
一ノ瀬 正志
【昭和 61 年卒（第 38 回）】
齋藤 治男
【昭和 63 年卒（第 40 回）】
小板橋 敏弘、佐藤 英幸、波田野 崇
【平成元年卒（第 41 回】
大竹 豊和、齋藤 仁史
【平成２年卒（第 42 回】
野口 玉枝、渡部 辰夫
【平成４年卒（第 44 回）】
菅家 広之
【平成５年卒（第 45 回）】
栃木 和紀
【平成 26 年卒（第 66 回）】
齋藤 万由、森田 優也
【令和６年卒（第 76 回）】
根本 芽衣
【令和７年卒（第 77 回】
五十嵐 祐太、猪俣 大雅、佐藤 伶
町鳥 花々

（合計 183 名）

＜令和７年度　会員寄付者ご芳名＞（受付期間：令和７年４月１日から令和８年３月31日）

当会発展のためにご寄付をいただきました。ありがとうございました。＜敬称略＞

50,000 円
三橋 孝（昭和 27 年卒・第４回）

8,000 円
佐瀬 善彦（昭和 28 年卒・第５回）
田付 良雄（昭和 35 年卒・第 12 回）
田中 益代（昭和 42 年卒・第 19 回）
齋藤 治男（昭和 61 年卒・第 38 回）

3,000 円
遠藤 明男（昭和 27 年卒・第４回）
室井 初男（昭和 43 年卒・第 20 回）
笠間 ヤス子（昭和 44 年卒・第 21 回）
森 桂子（昭和 46 年卒・第 23 回）
渡部 佐吉（昭和 50 年卒・第 27 回）
一ノ瀬 正志（昭和 60 年卒・第 37 回）

2,000 円
小森 茂（昭和 27 年卒・第４回）
酒井 美代子（昭和 45 年卒・第 22 回）
小林 謙二（昭和 48 年卒・第 25 回）

電子部品のことなら
ELECTRONICS
株式会社 若松通商
https://wakamatsu.co.jp/waka/
S41 年（18 回）卒　室井 広子

新座市シルバー銀声会
赤ベコ会会員
若商会幹事

根　本　　等

〒352-0003 埼玉県新座市北野 2-12-13
TEL：090-6132-2121

成　田　トミ子
(昭和41年卒・第18回)
猪苗代町出身
東京都江東区在住

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
顧問

鈴　木　　誠
(昭和43年卒・第20回)
会津若松市出身

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事

池田俊子（昭和 44 年卒・第 21 回）
北会津下野出身

趣味：じっとしているのが苦手
・ランニング
　《コロナの為３年間大会に出ていません》
・太極拳《細々と仲間で練習会をしています》
・スキューバダイビング
　《水中写真でじっとしているのが大変》
・ソーイング・織物
　《最近ブラウスや帽子などいろいろ作れるようになりました》
仕事柄教えるのが好きかもしれません。
みんなで若商会を盛り上げましょう！！

小林謙二
（昭和 48 年卒・第 25 回）
会津若松市出身

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
副幹事長

吉田　玲子
（昭和 49 年卒・第 26 回）
猪苗代町出身

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
会計幹事

芳賀清喜
(昭和48年卒・第25回)
南会津下郷町出身

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
副会長

大町　富江
（昭和 53 年卒・第 30 回）
会津若松市出身
・・・・・・・

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事

伊藤　秀一
(昭和49年卒・第26回)
会津若松市出身

福島県立若松商業高等学校
同窓会東京支部東京若商会
学年幹事

令和7（2025）年度 会務活動実績

《2025年》

4月5日（土）
第1回役員会（総会準備）
第1回広報委員会　於「上野精養軒」参加者25名

4月15日（火）
ゴルフ同好会コンペ
於「紫カントリーあやめコース」参加者8名

4月16日（水）
同窓会本部役員会・支部長会議　於「ルネッサンス中の島」
出席者2名

4月26日（土）
総会案内状等発送作業
於「岩槻会場」　作業者7名

4月27日（日）
会計監査　青山典・根本等監
事他　於「芳賀清喜事務所」

5月10日（土）
第2回役員会（決算報告・総会準備）「ネット開催」参加者10名

5月24日（土）
同窓会本部総会　於「ルネッサンス中の島」　東京支部出席者7名

6月7日（土）
総会直前準備作業　於「岩槻会場」　作業者6名

6月14日（土）
第96回東京若商会総会
於「上野精養軒」出席者114名
時間：10時30分～14時30分
会報第23号　700部発行

7月12日（土）
第3回役員会「総会の反省会」
於「御徒町：池田屋」参加者25名

9月13日（土）
文化芸能鑑賞同好会　寄席を楽しむ会　於「新宿末広亭」
参加者10名

10月初旬～10月中旬
役員・旅行同好会合同秋季旅行会　中止

10月19日（日）
第2回広報委員会（会報第24号発刊計画）　参加者5名

11月15日（土）
ネット三役会議（正副会長、正副幹事長、常任顧問）
参加者6名

12月6日（土）
第4回役員会・忘年会　第3回広報委員会　於「上野精養軒」参加者23名

《2026年》

2月7日（土）
第5回役員会・新年会
於「御徒町：池田屋」参加者17名

3月14日（土）
名所旧跡巡り同好会（豊洲市場見学）　参加者19名

令和8（2026）年度 会務活動計画（案）

《2026年》

4月11日（土）
第1回役員会（総会準備）第1回広報委員会　於「上野精養軒」会計監査　青山典・根本等監事他

4月21日（火）
ゴルフ同好会コンペ　於「石坂ゴルフ倶楽部」

4月25日（土）
総会案内状等発送作業（応援者6名程度）　於「岩槻会場」
総会出欠締切日　5月28日（木）

5月9日（土）
第2回役員会（決算報告・総会準備）「ネット開催」

5月23日（土）
同窓会本部総会　於「ルネッサンス中の島」

6月6日（土）
総会直前準備作業（応援者6名程度）於「岩槻会場」

6月13日（土）
第97回東京若商会総会
於「上野精養軒」
時間：10時30分～14時30分
会報第24号発行

6月27日（土）
名所旧跡巡り同好会（第2回豊洲市場見学）

7月11日（土）
第3回役員会「総会の反省会」
於「上野精養軒」

8月上旬
同窓会本部役員会・支部長会議　於「ルネッサンス中の島」

9月12日（土）
文化芸能鑑賞同好会　寄席を楽しむ会　於「新宿末広亭」

9月27日（日）・9月28日（月）
役員・旅行同好会合同秋季旅行会　1泊2日　関東周辺

10月下旬
第2回広報委員会（会報第25号発刊計画）

11月14日（土）
ネット三役会議（正副会長、正副幹事長、常任顧問）

12月5日（土）
第4回役員会・忘年会　第3回広報委員会　於「上野精養軒」

《2027年》

2月6日（土）
第5回役員会・新年会
場所：未定

■令和8年度　役員構成（案）

会　長	芳賀　清喜（昭和48年卒）
副会長	池田　俊子（昭和44年卒）
〃	三浦　新治（昭和44年卒）
幹事長	五十嵐　健（昭和50年卒）
副幹事長	小林　謙二（昭和48年卒）
〃	渡邊　信郎（昭和56年卒）
会計主幹	渡部　佐吉（昭和50年卒）
会　計	酒井美代子（昭和45年卒）
〃	吉田　玲子（昭和49年卒）
監　事	青山　典（昭和34年卒）
〃	根本　等（昭和40年卒）
学年幹事	21名
顧　問	7名

訃報

左記の方々の訃報に接しました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

故　佐瀬　善彦（昭和28年卒・第5回）
故　齋藤　共子（昭和35年卒・第12回）
故　讃岐　忠守（昭和39年卒・第16回）
故　阿部　清功（昭和45年卒・第22回）
故　森山　紀子（昭和50年卒・第27回）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 目 次 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

《参加者拡大を目指して!!》　会長　本名　喜久造……1
東京若商会会報第24号発行に寄せて
同窓会会長　佐瀬　正行……2
東京若商会会報第24号発行に寄せて
前校長　中野　正人……3
【令和７年度総会・懇親会報告】
「第96回東京若商会総会・懇親会を盛大に開催!!」
会長 本名　喜久造 ……4
総会に初めて参加して　佐藤　安廣……6
【幹事長レポートNo７】　幹事長　五十嵐　健……6
【追悼文】
前常任顧問　佐瀬善彦さんを偲んで
会長 本名　喜久造 ……7
齋藤共子さんを偲んで　同窓会名誉顧問　二瓶　哲……7
【恩師からの便り】
進路指導を振り返って　星　修一……8
私の若商時代　野中　嘉浩……8
「われ等の母校商業校」　羽染　恒……8
【若商時代の思い出】
母校在学で得た無限の財産　鈴木　公毅……9
懐かしい部活動・卓球部　坂井　徹夫……10
通学と部活　山田　積次……11
【ふるさと新発見】
福島県に東蒲原郡があった　松川　源郎……12
【みんなの広場】
転　倒　小山　文美……12
中学生最後の冬休み　猪俣　信儀……13
「寝正月　しました」　杉原　光男……13
「思い出は 老いの身の 宝物である。」
青山　典……13
ビバ！　映画音楽14　上杉　敏男……14
歌日記「老々介護奮闘記、その後」
弓田　博……15
「東京若商会」の思い出！　鈴木　稔……16
水　仙　室井　軍三……16
私の公民館活動　長谷川　哲雄……16
出前授業を通して思うこと　池田　俊子……17
胃がんで闘病生活　星　留男……17
とろろご飯　三浦　新治……18
東京若商会同窓会に参加しませんか！
阪谷　サヨ子……18
私の健康法２　小林　謙二……19
懐かしい友との再会に感謝　佐藤　紀恵子……19
トルコ放浪記 ～ヨーロッパとアジアの架け橋を歩く～
根本　文昭……20
人生はひまつぶし　谷吹　利男……21
【短　信】……21
【同期会報告】
「三四会」今年も開催　上杉　敏男……23
熱川の別荘を訪ねて　田部　裕子……24
❖❖❖16名集う・花のＳ45年同級会❖❖❖
本名　喜久造……24
第２回「昭和50年卒会」開催！
根本　文昭……25
【同好会報告】
ゴルフ同好会　佐藤　英幸……26
文化芸能鑑賞同好会　五十嵐　健……26
名所・旧跡巡り同好会　上杉　敏男……26
旅行同好会　三浦　新治……27
東京若商会ホームページ紹介 ……28
令和７年度東京若商会一般会計決算報告 ……28
令和８年度東京若商会一般会計予算（案）……28
令和７年度会費納入者ご芳名／寄付者ご芳名 ……29
名刺広告 ……30
令和７年度会務活動実績／令和８年度会務活動計画（案）……31
令和８年度役員構成（案）……31
訃報 ……31
目次 ……32
編集後記 ……32

【編集後記】

97年前に母校同窓会東京支部「東京若商会」が産声を上げました。１世紀近く連綿と続く若商会をさらに発展させるべく会報が24年前に発行されました。その会報の創刊にご尽力いただいた前常任顧問の佐瀬善彦様が亡くなられました。会長の本名より追悼文をいただきました。また、同窓会本部会長を永らく務められ、本会にも常にご理解・ご協力をいただいた齋藤共子様が亡くなられました。同窓会名誉顧問で第23代校長の二瓶哲先生より追悼文をいただきました。

中野正人前校長先生から後輩たちの活躍が報告されました。簿記研究部が20年連続で全国大会出場とは驚きです。さらに、税理士試験科目合格者が出て、福島県初の快挙だと。これも驚きです。後輩たちは文武両道にわたり素晴らしい成果を上げているようです。生徒の努力はもちろん校長先生をはじめとする先生方のご指導の賜物と窺い知ることができます。

〈恩師からの便り〉では、何と３人の先生方から便りをいただきました。星、野中、羽染の各先生には、教科・部活動・進路指導等で生徒に寄り添いながら丁寧にご指導をしていただき、成果を挙げてくださいました。

今年もまた、初めて総会に参加された会員からの感想も寄せられました。さらに、総会に参加できなかった会員のうち41名から近況報告がありました。「短信」に掲載させていただきました。次年度総会に参加できない方は総会出欠葉書の「自由通信欄」に近況をご報告ください。会報に掲載し、会員同士の情報交換の場とさせていただきます。

今号も例年通りの紙数での会報の編集ができました。寄稿くださいました本部会長・校長・恩師・会員の皆様には感謝いたします。今後とも会報の一層の充実に努めてまいりたいと思います。掲載内容や特集などのご要望やご意見等がございましたらお知らせください。

末筆となりましたが、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

広報委員長　根本　文昭（昭和50年卒）
《広報委員》
山田　積次（昭和44年卒）
小林　謙二（昭和48年卒）
芳賀　清喜（昭和48年卒）
渡邊　信郎（昭和56年卒）